

平成24年度

# 「基礎学力調査」

— 分析・考察 —

平成24年10月  
石川県教育委員会

# 目 次

本書の構成	1
1 教科に関する調査について	
2 質問紙調査について	
<b>I 教科に関する調査結果の分析・考察</b>	<b>3</b>
《小学校第4学年 国語》	6
《小学校第4学年 算数》	12
《小学校第6学年 社会》	20
《中学校第3学年 社会》	28
《中学校第3学年 英語》	34
<b>II 質問紙調査結果の分析・考察</b>	<b>41</b>
1 小学校第4学年児童の調査結果	43
2 学習・生活状況と正答率との関係	49
3 教員の調査結果	51

## 本書の構成

### 1 教科に関する調査について

#### (1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

#### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正答率	「到達状況」を示す記号、用語
90%を上回っている場合	◎：良好である
80%～90%の場合	○：概ね良好である
70%～80%の場合	◇：基準に到達している
60%～70%の場合	▽：十分とはいえない
60%を下回っている場合	▼：不十分である

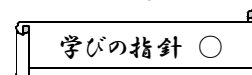
- ・領域・分野ごとの結果の状況、分析・考察及び今後の指導の方向性
- ・「指導改善のポイント」

#### (3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項目	内容
①	問題と解答の状況	・設問番号，領域・分野，出題のねらい，評価の観点 ・関連問題 ・正答例，誤答例，正答率，誤答率，無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年，単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「いしかわ学びの指針12か条」の項目を次のように示す。



### 2 質問紙調査について

#### (1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較，学年間比較

#### (2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

#### (3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの調査結果



# I 教科に関する調査結果の分析・考察



小学校 第4学年  
「国語」「算数」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は、81.0%で昨年度に比べ12.7ポイント上昇している。「読むこと」の説明的文章の段落相互の関係理解や、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のローマ字の定着が図られたことが主な要因である。「主語と述語」は、16.1ポイント上昇し、指導の成果が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【話すこと・聞くこと (91.9%)】

◎：話の中心に気を付けて大事なことを聞き取ること〔一2〕

設問一2の正答率は95%を超えており、大事なことを聞き取るとは良好である。設問一3の司会の役割については、正答率は概ね良好であるが、今後も意図的・計画的な指導が必要である。

設問番号	問題の内容	正答率	
一	2	内容の聞き取り (要点)	95.1%
	3①	司会の役割 (意見や提案の整理)	93.5%
	3②	司会の役割 (意見や提案の整理)	85.3%
	3③	司会の役割 (意見や提案の整理)	88.9%

【書くこと (75.9%)】

○：条件に応じた字数で書くこと〔八2条件〕

設問八2条件は、60字を超えて書く問題である。正答率は昨年度より9.0ポイント上昇し、概ね良好である。無解答率も5.3ポイント減っていることから、これまでの条件を満たして書く指導の成果が現れたものと思われる。

設問番号	問題の内容	正答率	
八	2条件	相手や目的に応じて適切に書く	89.0%

▽：表記に注意しながら、相手や目的に応じて適切に書くこと〔八2内容、表記〕

設問八2表記は、昨年度より13.7ポイント上回り、改善が見られるものの、「段落の書き始めは、改行すること」などは依然として課題である。

設問番号	問題の内容	正答率	
八	2内容	相手や目的に応じて適切に書く	78.8%
	2表記	段落の書き方・句読点の使用	59.4%

低学年の段階から、「読むこと」の領域においても、改行による文のまとまりが文章の単位の役割をもっていることを理解させるとともに、他教科での書く活動の中でも、段落を意識させる指導を行う必要がある。

【読むこと (85.4%)】

◎：目的や必要に応じて、文章を要約すること〔二4〕

設問二4は、文章を要約し、文章の題名を選択肢から考える問題である。正答率は94.2%であり、良好である。一文が短く、内容が捉えやすい文章であったものの、目的に応じて、読み落としてはならない大事な言葉や文を意識した指導の成果の一つといえる。しかし、近年の調査問題 (H23 : 9.6%, H22 : 58.6%, H21 : 39.3%) では、自分の言葉でまとめる力は不十分であったこともあり、今後も、目的に応じて中心となる語や文を捉えるような学習を、継続的・系統的に指導する必要がある。

設問番号	問題の内容	正答率	
二	4	説明的文章の内容理解 (まとめ)	94.2%



**◇：文章の要点や細かい点に注意しながら読むこと【二2】**

設問二2は、目的に応じて、文中の言葉を抜き出す問題である。正答率は、基準に到達している。20、22年度における表にまとめる問題においても、正答率は約8割と概ね良好であり、

設問番号		問題の内容	正答率
二	2(1)	説明的文章の内容理解（要点）	72.9%
	2(2)	説明的文章の内容理解（要点）	86.7%

小見出しを付けたり、表にまとめたりする学習は機能していると思われる。しかし、目的が不明確なスキルの指導も依然として多く見られる。

指導に当たっては、今後も継続的に以下の点に注意して指導していく必要がある。

- ・目的や必要に応じ、細部へ目を向けて段落の要点をまとめる。
- ・目的や必要に応じ、小さなまとまりごとに小見出しを付ける。
- ・まとめたことを分かりやすく自分なりに表等にまとめる。

(H20「分析・考察」事例2, H22「分析・考察」事例2参照)

**【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（76.8%）】**

**◇：主語と述語の関係を理解して、文中から抜き出すこと【五】**

主語と述語の照応関係については、ここ数年、約6割の正答率で課題となっていた。しかし、これまでの継続的な指導が成果として現れ、今年度は基準に到達している。

設問番号	問題の内容	正答率
五	主語（ゆうこさんは） 述語（かりました）	77.5%

今後も引き続き、「主語」「述語」などの用語を意識的に使いながら、文中での語句の役割について理解させる必要がある。

(H18・19「指導資料集」指導事例2参照)

**▼：文脈に応じた語句の意味を辞書から抜き出すこと【三2】**

国語辞典の仕組みや語句の配列等、辞書の使い方についての基礎的な理解は概ね良好であるが、複数の意味の中から文脈に応じた意味を選び出すことについては課題が見られた。

設問番号	問題の内容	正答率
三	1 辞書の使い方（調べる方法）	85.5%
	2 辞書の使い方（語句の意味）	49.0%

指導に当たっては、

- ・国語辞典をいつでも使えるように準備しておく。
- ・文章を読む中で、児童の意識が「分からない、調べたい」となるような場を意図的に設定する。
- ・文脈に応じた語句の意味を国語辞典から選び出す経験を積ませる。

などに留意し、学習活動の中で児童自身が、国語辞典を引くことで言葉の持つ本来の意味を知り、言葉で表現することの難しさに触れ、言語感覚を磨き、語彙を増やしていく体験を積ませることが大切である。

また、他領域、他教科においても調べることができるよさを実感させ、辞書の活用の場面を広げていくことが大切であり、日常生活の中でも積極的に辞書を使うよう習慣付けることが重要である。

**指導改善のポイント**

- 相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように、段落を意識したり、句読点などの表記に注意したりしながら、文章を書くことができるようにすること (→事例1)
- 日常生活に生かせるように、表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる学習を充実させること (→事例2)

※下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例 1

相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように、段落を意識したり、句読点などの表記に注意したりしながら、文章を書くことができるようにすること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
八 2 (表記)	書くこと	段落と段落の続き方に注意して、段落の始めは行を改めて書くことができる。句読点の打ち方を理解し、適切に使うことができる。	書く能力 言語についての知識・理解・技能

八 2 山田さんは、調べたことをカードアとイにまとめました。そのあとで、カードアの内容を「 」に書きました。それと同じようにカードイの内容をすべて使って、原こう用紙に、六十字より多く書きましょう。

正答例	誤答例	
おじいさんは、竹とんぼのことを教えてくださいました。自分で竹を切って、はねをうすくけずってつくったそうです。高くとぶとうれしかったそうです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き出しが一ます下がっていない。</li> <li>文末の句点が抜けている。</li> <li>句読点に一ます使っていない。</li> </ul>	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
表記 59.4% (14.0%)	36.6%	4.0%

② 指導改善に向けて

誤答例では、「書き出しが一ます下がっていない」「文末の句点が抜けている」「句読点に一ます使っていない」などが挙げられている。「段落の始まり」の意識や、句読点の打ち方の理解が不十分と思われる。

指導に当たっては、他領域や他教科においても、「書き出し」や「段落の始まり」を意識付け、一ます下げる指導を徹底させることが重要である。また、正しい表記が相手にとって分かりやすい文章となることを理解させる指導も必要である。

更に、「書くこと」の学習の系統性を意識して全学年で取り組むことが大切である。

③ 改善事例

第1学年 「くちばし」(光村一上)  
「しらせたいな、見せたいな」「どうぶつの赤ちゃん」(光村一下)

1 指導のねらい

- 文章の段落(まとまり)を意識しながら、読んだり書いたりすることができる。

2 具体例

- 年間を通して、文章の段落を意識した学習活動を各領域等で関連付けながら積み上げる。

【読むこと】

- 説明的文章を読むことで、文章の段落に気付く。

↔

【書くこと】

- まとまりごとに書くことで、一ます下げる意味を理解する。

↗

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 段落の始めで改行すること、句読点を適切に打つことなどができる。

↖

## 段落（まとめ）意識をもとう！

## 「くちばし」【読むこと】

きつつき

① くちさ ② くちこ ③ くちこ ④ ときがき ⑤ あきに

おうむ

① まがっ ② これば ③ これば ④ まがっ ⑤ からさ

はちどり

① ほそく ② のびた ③ これば ④ これば ⑤ ほそな

⑤ 食べる方

④ 使い方

③ 答えの文

② 問いの文

① 様子

全文を縦に比べて見ること  
で、筆者の伝えたいことが段  
落ごとに述べられていること  
に気付かせます。  
年間を通して段落をもとに  
全文を見ることで、文章の段  
落意識を培っていきます。



※段落ごとに小見出しを付けることで…

- ・よりまとめ感を感じることができます。
- ・小見出しカードを提示して、書く活動にもつなげることができます。

## 段落（まとめ）を使って書こう！

## 「しらせたいな、見せたいな」【書くこと】

○文章にする前に、段落意識をもたせよう！

えさをやると、口を

はなのまわりには、

目は、まるくて

学校にミントという

みみはないです。

さきは、びんとして

います。

- ・まずは色のちがう 5 枚のカードを用意します。
- ・観察した内容ごとに 1 枚のカードに書きます。
- ・句点で改行させないために、観察文はなるべく 2 文以上書きます。
- ・カードを並べ替えて、伝えたい順番を決めます。
- ・カードの色の変わる時が改行する時と感じさせ、一まずあけて書くことを意識させます。

## 書いたものを読み返そう！

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

○チェックカードを使って、自分で間違いに気付けるように！

① カードの色が変わったところでは、必ずあいて

② 文の終わりには句点

③ 字は正しく書けて

（チェックカード）

いるかな。

（）があるかな。



※まず目の使い方をしっかり身に付けさせましょう！

日々の授業で、まず目のある用紙を使って書くことが効果的  
です。  
文章の段落感覚を磨き、まず目のない用紙でも改行して  
書くことができる力を付けていきましょう。

※同じような手立てで学習できます！

2年「おもちゃの作り方」（光村二下）

3年「食べ物のひみつを教えます」（光村三下）

→「まず」「つぎに」…と、まとめごとにカード  
に書くことで、文章の段落を意識させます。

※読み返す習慣を付けることが大切！

## 段落（まとめ）を意識して読もう！

## 「どうぶつの赤ちゃん」【読むこと】

まとめごとに読むと、問い  
の文の答えが分かったよ。  
ライオンとしまの読みを  
使おうと、カンガルーの文章も、  
自分で比べて読めたよ。



「みいつけた」「じどう車くらべ」と同じよ  
うに「どうぶつの赤ちゃん」でも、問いの文  
に対する答えが、①生まれた時の様子②移動  
能力③食べ方の順で段落を使って述べられて  
いることに気付かせます。1年間かけて段落  
を意識した読みの力を付けていきましょう。

※用語としては、「段落」「小見出し」は第3学年からの指導事項になっています。

イ 事例2

日常生活に生かせるように、表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる学習を充実させること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
三 2	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	辞書の使い方を理解し、目的に応じて活用することができる。	言語についての知識・理解・技能

三 2 「たつ」という言葉を国語辞典で調べます。この文章の場合、どの意味があてはまりますか。次のア～エから一つえらび、その記号を□に書きましょう。  
 ア すぎる    イ おき上がる    ウ まっすぐになる    エ 切りはなす

正答例	誤答例		
ア	イ	ウ	エ
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率	
49.0% (0.0%)	50.4%	0.6%	

② 指導改善に向けて

今回出題された「たつ」という言葉は、文章の中では「時間がたつのもわすれて」と表記されている。正答率の低さから、辞書に書かれた一つ一つの意味を、文章中の「たつ」にあてはめ、文意にあったものを抜き出すという学習の機会が少なく、身に付いていないことがうかがわれる。

指導に当たっては、文脈の中で難語句の意味を類推することも大切であるが、文脈上の意味を正確に捉えるための辞書の活用が重要である。また、他教科や日常生活と結び付けた辞書の活用場面を意図的に取り入れ、辞書を引くことで、使える語彙が増え、読みが深まるという経験を積み重ねていくことが大切である。

③ 改善事例 第3学年 せつめいのしかたを考えよう

「すがたをかえる大豆」(光村三下)

1. 指導のねらい

- ・ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、段落相互の関係や、事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。

2. 具体例

【教材研究の場面】

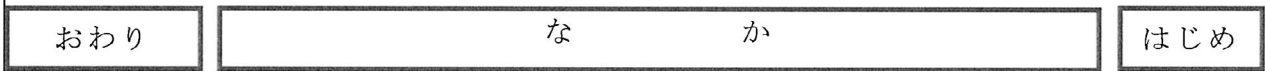
「ありの行列」で「はじめ・なか・おわり」の構成を勉強したから、この教材では構成を意識させて、「分かりやすい説明の仕方」を考えさせよう。このあと勉強したことをもとに「他の食べ物のひみつを調べて説明する文章」が書けそうね。



子ども達は、言葉の意味を正しくつかまないと細かい点に注意して読めないだろうな。辞書を活用するとよく分かるという実感を持たせる場を設定したいわ。

【学習の場面】

○「はじめ・なか・おわり」の構成に注意して具体例を整理しながら読む。



昔の人々の  
のちえ


どんな工夫をしているかすぐに分かったよ。自分でまとめられそうだよ。

大豆をいって、こなにひいたものです。


粉にひいて食べる工夫

やわらかくおいしくする工夫

おいしくする工夫



粉に「ひく」というけど、どうやって粉にするの？「ひく」ってどういう意味なのかな？




そうとうと「大豆をいって、こなにひいた」って、どうすることかな？国語辞典で「ひく」を引いてみよう。前に出てきた「いる」も調べてみようかな。

	・	石	入	自	長	引	選	引
	こ	れ	れ	分	く	っ	び	き
	な	す	る	の	の	ぱ	出	算
	に	な	中	体	ば	る	す	を
	す	ど	に	の	す			す
	る	を		中				る
	こ	使						
	な	っ						
	に	て						
	す							
	る							


この意味が文に合うぞ。「いって、こなにひく」っていうのは、「石うすなどでこなにする」ことなんだ。「石うす」もどんなものか調べてみよう。

文脈に合う意味を選ぶ



分かった！火にかけて「いる」から、豆がかたくなるんだ。それを石うすなどで「ひく」から、さらさらのきな粉になるっていうことだね！

授業中に辞書を引く機会を意図的に設定することで、文脈に合う意味を選ぶ力が付いてきます。また、意味を生活経験に結び付けて解釈させることで、一人一人が自分なりの言葉を獲得していきます。




- 調べてみたい食べ物について書かれた本を読む。
- 自分の調べてみたい食品を選び、例を挙げて説明する文章を書く。

【国語辞典の活用の場面】

調べた言葉をカードに書かためて「マイ辞典」を作ってみよう。

国語辞典には色々な教科の教科書で使う言葉も載っているよ。いつでも引いてみよう。

引いた言葉にマーカーで色をぬったり、付箋を付けたりとすると、どれだけ調べたかひと目で分かって、楽しくなるよ。



## 小学校第4学年 算数

平均正答率

72.2%

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は72.2%で、基準に到達している。「数と計算」領域の四則計算や他領域の短答式の問いは概ね良好である。しかし、活用力を問う記述式の問いについては課題が見られる。文意を読み取り、数量や式、図、グラフ等を関連付けて思考し表現していく力が十分でないためだと考えられる。

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

#### 【数と計算 (79.0%)】

##### ◎：基本的な四則計算ができること〔1〕

設問1は、90%以上の正答率で、基本的な四則計算については良好である。

指導に当たっては、引き続き、計算技能の習得・習熟を図る指導に偏ることなく、計算の意味や計算の仕方考えることなど基本的な概念の理解を深め、活用できるようにすることが大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	(1) 繰り上がりのない加法計算	97.1%
	(2) 波及的繰り下がりのある減法計算	89.6%
	(3) 小数(10分の1の位)の加法計算	97.5%
	(4) 余りのある除法計算	96.2%
	(5) 分数の減法計算	92.8%
	(6) 3位数×2位数の筆算	86.1%

##### ▼：帰納的な考え方をういてきまりを読み取ること〔9(2)〕

設問9(2)は、正答率は38.3%と不十分であった。誤答には数の作り方を説明する内容が多く、無解答率も高かった。リード文と問題文を関連させて文意を捉えることができなかつたことや、共通性を数学的な用語を用いて的確に表現することに慣れていないことが原因と考えられる。

帰納的な考え方は、論理的な思考の1つとして大切な考え方である。そこで、様々な授業場面で、以下のような手順を意識させながら指導し、帰納的な考え方を身に付けさせるとともに、きまりや共通性を的確に表現させることが大切である。

- ①複数の具体例を集める
- ②共通にみられるきまりや性質を見いだす
- ③別の具体例で確かめる
- ④数学的な用語を用いて表現する

設問番号	問題の内容	正答率
9(2)	帰納的な考え方をういてきまりを読み取り	38.3%

##### ▽：二量の倍関係を読み取ること〔8(2)〕

設問8(2)の正答率は、60.7%と十分とはいえない。誤答の多くは「水泳が好きな人数は、バドミントンが好きな人数の4倍です。」を選択していることから、「倍」の概念を「差」の概念と混同していることが原因だと考えられる。

指導に当たっては、言葉・式・図等に表された数量の関係を捉える活動を取り入れ、「何が基準量になっているのか」を明らかにした上で、「何は何の何倍か」あるいは「何の何倍が何か」を考えられるようにする指導の充実が必要である。

設問番号	問題の内容	正答率
8(2)	二量の倍関係の読み取り	60.7%

#### 【量と測定 (67.6%)】

##### ◇：身近なかさの量感覚を捉えること〔3(1)〕

設問3(1)の正答率は76.1%と、昨年と比較して45.0ポイント上回った。要因は、問われたかさの単位が、日常生活になじみの薄いdLからよく見かけるLになったことだと考えられる。

量の感覚を豊かにするために、日常生活において、身の回りにある様々な量を、単位を意識しながら予想したり、比べたり、調べたりすることが大切である。

設問番号	問題の内容	正答率
3(1)	身近なかさの量感覚	76.1%

▼：全体・容器・正味の重さの関係を読み取り，不足分の重さを求めること〔6〕

全体・容器・正味の重さの関係を読み取り，不足分の重さを求める問題では，正答率が43.5%と，昨年度の41.6%に引き続き不十分である。誤答の中には，絵図から必要な情報を読み取っていないものや，問題文と絵図との関連が図られていないことなど，三量を正しく関連付けることができなかつたことが課題として見られる。また，文意を読み取れていないことに起因する誤答も見られた。

設問番号	問題の内容	正答率
6	全体・容器・正味の重さの関係の読み取り	43.5%

指導に当たっては，昨年度の指導事例等を参考に，文章や絵図等から問題解決に必要な情報を読み取る活動や，読み取った情報から根拠を明確にする活動を充実させることが必要である。（H23「分析・考察」事例2 参照）

【図形（58.9%）】

○：面の形と数に着目して箱の構成要素を理解すること〔5(1)〕

設問5(1)は，今年度の正答率が80.8%と，昨年度に比べ20.8ポイント上昇した。図形について具体的にイメージしながら，構成要素に着目していくといった指導改善が進められた成果であると考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
5(1)	箱の構成要素(面)の形と数への着目	80.8%

今後も引き続き，様々な図形についての観察，構成，分解などの活動を通して，構成要素に着目し，図形についての理解を深めていく指導が大切である。

▼：円と正三角形の性質を関連付けて，正三角形になる理由を説明すること〔7〕

設問7の正答率は25.1%と，昨年度の円の半径と二等辺三角形を関係付けて捉える問題に比べ，25.8ポイント下回った。解答のほとんどに「長さが同じ」の選択肢が選ばれていることから，正三角形の定義は理解されていると考えられる。しかし，正三角形の一边が円の直径にあたることに気付かず，正しく説明することができなかつた。依然として，複数の図形の性質を関連させて筋道立てて考えたり，説明したりできていないことが課題である。

設問番号	問題の内容	正答率
7	円と正三角形を関係付けた説明	25.1%

指導に当たっては，図形を既習の定義や性質に基づき弁別し，いくつかの図形の性質を関連付けて根拠や筋道を明確に説明する活動をより一層充実させることが必要である。

(H23「分析・考察」事例1 参照)

【数量関係（65.2%）】

○：棒グラフを作成すること〔8(1)〕

設問8(1)の正答率は83.8%と昨年度に比べ13.0ポイント上回り，概ね良好であった。昨年度の最小目盛り1のグラフに対して，今年度は最小目盛り2のグラフになり難易度が上がっていることから，グラフを読んだりかいたりする力が身に付いていると考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
8(1)	棒グラフの作成	83.8%

今後は，目盛りの付け方・読み方について，ものさしや数直線と関連させて指導し，最小目盛りに着目して，グラフを読んだりかいたりできるようにすることが大切である。

指導改善のポイント

- 帰納的な考え方をを用いてきまりや性質を見いだす経験を通して，論理的に思考し表現する力を身に付けること（→ 事例1）
- 倍の意味について理解し，言葉・式・図等を関連付けて，二つの数量の関係を捉えられるようにすること（→ 事例2）

※ 下線の箇所は，改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

ア 事例 1

帰納的な考え方をを用いてきまりや性質を見いだす経験を通して、論理的に思考し表現する力を身に付けること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
9(2)	数と計算	帰納的な考え方をを用いて、きまりを見だし説明することができる。	数学的な考え方

9 1～5までの数字が書いてあるカードが1まいずつあります。そのカードを使った計算をします。次の問題に答えましょう。

〈計算方法〉



この中から2まいをえらんで、2けたの整数をつくります。

たとえば、2と4をえらぶと、24と42ができます。

そして、2つの整数をたします。

$$24 + 42 = 66 \quad \text{答えは66です。}$$

また、3と4をえらんで、同じように計算すると、次のようになります。

$$34 + 43 = 77 \quad \text{答えは77です。}$$

(2) この計算の方法で2つの整数をたした答えには、どんなきまりがありますか。「十の位」「一の位」という言葉を使って書きましょう。

正答例	誤答例	
(答えは)「十の位」と「一の位」の数が同じ(になる)	「十の位」と「一の位」の数を(入れかえて)たす。「十の位」をたして「一の位」をたして計算する。	
正答率(準正答率) 38.3%(3.5%)	誤答率 51.5%	無解答率 10.6%

② 指導改善に向けて

この設問は、2枚のカードを選んでつくった式の答え(和)のきまり(共通性)を見だし、指定された用語を用いて説明する設問である。正答率は38.3%と不十分であり、無解答率は10.6%と高かった。

今後の指導に当たっては、領域にとらわれず、きまりや共通性を見いだせる授業場面で、帰納的な考え方をを用いる経験を積む必要がある。その際、「あつめる」「みつける」「たしかめる」「まとめる」という思考手順を意識させながら指導することで、論理的な思考の一つである帰納的な考え方を、問題解決に使える思考方法として身に付け、数学的な用語を用いて表現できるようにすることが大切である。



③ 改善事例 第3学年<帰納的な考え方をういてきまりを見いだす指導例>

1 指導のねらい

・複数の具体的な数について、帰納的な考え方をういてきまりを見いだし説明できるようにする。

2 具体例

(1) 帰納的な考え方をういてたし算の答えのきまりを見いだす活動

①~⑤のカードから2まい選んで、2けたの整数を2つつくります。  
①と②を選ぶと、12と21ですね。  
次にその2つの整数をたしてみましょ。 「答え」はいくつになりますか。  
①と②を選ぶと、 $12 + 21 = 33$ 。 「答え」は33になります。

① あつめる…複数の具体例を集める

②と③を選ぶと、23と32  
ができて、 $23 + 32 = 55$ だから  
答えは55になるね。

④と⑤を選んだら、答えは  
99。②と④だと、66。

② みつける…きまりを見いだす

答えにはどんなきまりがありますか？

あれっ？同じ数が2つだ  
よ！

③ たしかめる…別の具体例できまりを確かめる

ほかのカードを選んでも、  
見付けたきまりは成り立つかな？

①と③… $13 + 31 = 44$   
③と④… $34 + 43 = 77$   
やっぱり、同じ数が2つならん  
だよ

④ まとめる…数学的な用語を用いて表現する

「十の位」「一の位」という言  
葉を使ってまとめましょ。

2枚を選んで作った2けたの整数を  
たした答えには、「十の位と一の位  
の数が同じ」というきまりがあります。

(2) 帰納的な考え方をういてひき算の答えのきまりを自分で見いだす活動

今度はひき算で考えてみましょ。2つの整数のつくり方は同じです。  
たとえば、①と②を選んだ場合は、 $21 - 12 = 9$ 。「答え」は9ですね。  
ひき算の「答え」にも何かきまりはあるかな？自分で見付けましょ。



「①あつめる、②みつける、③たしかめる」の順だね。  
①あつめる…②と③を選ぶと、 $32 - 23 = 9$ だから答えは9。  
②みつける…「答えはいつも9になる」というきまりだ！  
③たしかめる…②と④を選ぶと、答えは18。あれっちがう？



あつめた例が少ないと、  
きまりとは言えないね。  
小さい数から順に集め  
るときまりを見付けや  
すいね。

① あつめる…①と③では18、①と④では  
27、①と⑤では36。

② みつける…答えはいつも九の段の九九の  
答えになりそうだ。

③ たしかめる…②と⑤を選ぶと、答えは27。  
やっぱり成り立つよ！



見付けたきまりをノート  
にまとめましょ。

④ まとめる

2枚を選んで作った2けたの整数をひいた答  
えには、「九の段の九九の答えになる」という  
きまりがあります。

(3) 見いだしたきまりを用いて発展的に考える活動

ひき算で、「答え」が9になるのは、どんなカードを選んだ場合ですか。何かきまりは  
あるかな？



①あつめる…①と②・②と③・③と④・④と⑤を選ぶと、答えは9ね。

②みつける…答えが9になるのは「2まいのカードの差が1のとき」かな？

③たしかめる…⑤と⑥でも答えは9になるかしら？

イ 事例2

倍の意味について理解し、言葉・式・図等を関連付けて、二つの数量の関係を捉えられるようにすること

① 問題と解答の状況

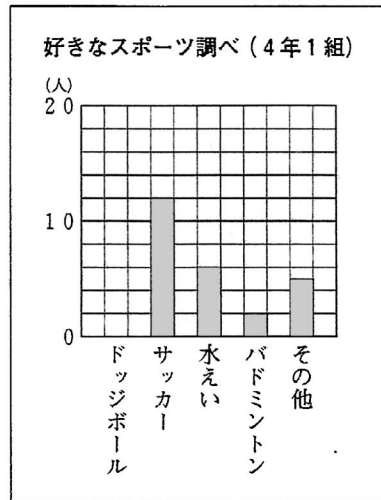
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
8(2)	数と計算	二量の倍関係の表現の仕方について理解している。	数量や図形についての知識・理解

8 あきらさんは、4年1組全員に好きなスポーツを1つずつ聞いて、グラフにまとめています。次の問題に答えましょう。

(1) ドッジボールが好きな人数は、14人です。人数のぼうをかき入れ、グラフをかんせいさせましょう。

(2) 水えいが好きな人数とバドミントンが好きな人数の関係を正しく表している文を、次のア～エから1つえらび、に記号を書きましょう。

- ア 水えいが好きな人数は、バドミントンが好きな人数の4倍です。
- イ 水えいが好きな人数は、バドミントンが好きな人数の3倍です。
- ウ バドミントンが好きな人数は、水えいが好きな人数の4倍です。
- エ バドミントンが好きな人数は、水えいが好きな人数の3倍です。



正答例	誤答例	
イ	・ア ・ウ ・エ	
正答率(準正答率)	誤答率	無解答率
60.7%(0.1%)	38.5%	0.8%

② 指導改善に向けて

この設問では、グラフから二量の倍関係を読み取り、二量の関係を「～は、～の○倍です。」と表現する設問である。誤答の多くは「ア」を選択しており、正答率は60.7%と十分な結果とはいえなかった。その原因として、「倍」の概念を「差」の概念と混同して理解していることが挙げられる。

そこで、今後の指導に当たっては、「倍」の意味を明らかにした上で、何倍かを求めるにはわり算を使うということを理解させる必要がある。

また、「倍」の理解の難しさとして、倍関係を表す表現の多様性が挙げられる。そのため、「何が基準量なのか」が捉えにくい。そこで、言葉と図、式を関連付けて、「何が基準量なのか」を捉える活動を取り入れることが必要である。その際に、「Aの○倍はB」の表現に言い換えた場合や「 $A \times \bigcirc = B$ 」の式に表した場合の「A」や、図における「一つ分」が「基準量」であることを理解させることが大切である。

③ 改善事例 第3学年<二量の倍関係を捉える指導例>

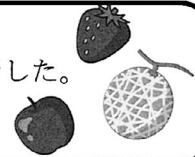
1 指導のねらい

- ・倍の意味について理解し、二つの数量の関係を正しく捉えることができるようにする。

2 具体例



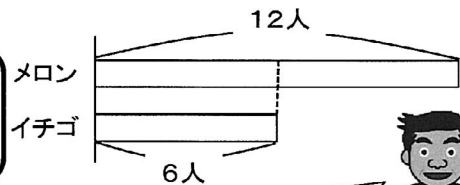
3年1組では、好きなくだもの調べをしました。  
メロンが好きな人数は12人でした。イチゴが好きな人数は6人でした。  
メロンが好きな人数は、りんごが好きな人数の3倍でした。



(1) 倍の意味を明らかに捉える活動



メロンが好きな人数は、イチゴが好きな人数の何倍ですか。何倍かを求める正しい式は、アかイのどちらですか。わけも説明しましょう。



ア  $12 \div 6 = 2$   
答え 2倍

イ  $12 - 6 = 6$   
答え 6倍

倍は「いくつ分」という意味だね。図にすると同じになるけど、「いくつ分」を求めるときは、何算かな？



メロンが好きな人数が、イチゴが好きな人数の「いくつ分」かを考えるんだよね。図を見ると、メロンはイチゴの二つ分だね。だから、倍を求める式は、アのわり算です。

そうか。イのひき算は「ちがい」を求めていたんだね。

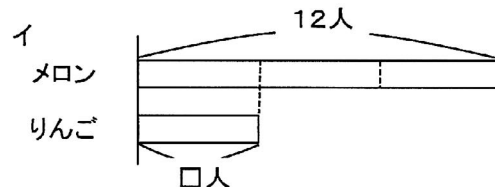
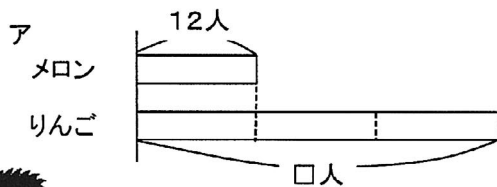


「倍(いくつ分)」を求めるときは、わり算を使います。



(2) 「もとにする量(一つ分)」を明らかにする活動

メロンが好きな人数とりんごが好きな人数の関係を、正しく表した図はアかイのどちらですか。わけも説明しましょう。



「一つ分」が分かれば、正しい図が選べるよ。

「りんごの3倍」だから、「一つ分」つまり「もとにする量」はりんごが好きな人数じゃないかな。



「メロンが好きな人数は、りんごが好きな人数の3倍」ですね。言いかえると、「りんごの好きな人数の3倍は、メロンが好きな人数」です。だから、「一つ分」は、りんごが好きな人数です。

「一つ分」がりんごの好きな人数になっているのは、イの図だね。



「Aの〇倍はB」と言いかえるとAが「もとにする量(一つ分)」だとわかりやすいですね。式に表すと、 $A \times \text{〇} = B$ です。

この場合は、 $\square \times 3 = 12$   
□を求めるには、 $12 \div 3 = 4$   
をすればいいね。  
りんごが好きな人数は、4人です。





小学校 第6学年  
「社会」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は 69.6%で、昨年度と同程度の結果であった。領域・分野別では、「産業と国土」の正答率が昨年度より 4.4 ポイント上昇した一方で、「地域学習」の正答率が昨年度より 5.2 ポイント下降した。依然として、自分の考えを必要な用語を用いて適切にまとめ表現する力に課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習 (68.0%)】

◎：地図帳を用いて、石川県の様子について必要な情報を検索すること〔1(1)①②〕

設問1のうち、(1)①や②など、地図帳を用いて石川県の県庁所在地や地形といった必要な情報を読み取る問題は、正答率は90%を大きく超えており良好である。

しかし、(2)④や(5)など、地図帳から読み取った情報を活用する地理的技能はいまだ十分とはいえない。

引き続き、石川県の様子に対する理解を深めさせるために、地図帳の見方や検索方法などの技能の定着が図られるよう、授業を工夫する必要がある。

設問番号	問題の内容	正答率	
1	(1)①	石川県の県庁所在地（金沢市）	94.6%
	(1)②	石川県の地形（日本海）	96.6%
	(2)④	隣接した都道府県名（岐阜県）	70.0%
	(5)	縮尺と実際の距離	67.6%

▼：地域の産業や消防署の働きについて、資料と既習の知識を基に、考察したことを表現すること〔3(3)、4(3)〕

設問3(3)、設問4(3)の正答率は、それぞれ42.1%、21.1%と不十分である。

設問3(3)は、昨年度の類似問題で、無解答率が11.4ポイント改善されているものの、正答率は13.5ポイント低下している。生産者や産地が分かるようにしているなどの誤答が多く見られることから、問題文から、環境を守るための工夫を問うている題意を読み取れなかったのではないと思われる。

設問4(3)は、消防署と他の関係機関が協力して人々の安全な生活を守っていることを具体的な言葉で表現させる問題である。誤答には、病院に対して「救急車の出動」を要請する表現が多かった。関係機関と連携・協力していることについては漠然と捉えているものの、具体的な言葉で書いたり説明したりする学習が十分に行われていないためと思われる。

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
3	(3) 環境を守るためのスーパーマーケットの工夫	42.1%	8.2%
4	(3) 災害時の連絡のしくみ	21.1%	6.8%

指導に当たっては、次のような指導を中学年段階から、系統的・継続的に行っていく必要がある。

- ・身近な地域の特色、産業などに携わる人々の工夫や努力について調べ、分かったことや考えたことを資料や既習事項と関連付けながら表現させること
- ・社会的事象について多面的・多角的に捉える力を育成するために、産業活動を生産者・販売者や消費者などの異なる立場から考えたり、環境保護の面から考えたりすること

## 【産業 (68.3%)】

▽：資料から必要な情報を読み取り、判断すること〔5(1)③, (2)④〕

設問5(1)③は、水産物の輸入量の変化を折れ線グラフから読み取る問題である。正答率が56.6%と不十分であり、資料から必要な情報が読み取れていない。また、設問5(2)④は、水産業で働く人の数の変化を棒グラフから読み取る問題であり、正答率は77.4%と基準に到達している。どちらも資料から変化を読み取る問題であるが、折れ線グラフの方が視覚的に必要な情報を読み取ることが難しかったのではないかと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
5	(1)③	水産物の輸入量の変化	56.6%
	(2)④	水産業で働く人の数の変化	77.4%

指導に当たっては、日々の授業の中で、資料から必要な情報を読み取り、判断する作業を取り入れ、その技能の定着を図ることが大切である。

▼：日本の産業について、資料や既習の知識を基に、表現すること〔5(2)⑤, (3), 6(3)〕

設問5(2)⑤は、水産物の生産量が減少した理由を問う問題であり、正答率は35.1%と不十分である。水産物の生産量が減少したことと、200海里水域の制限によって生産量が減少したことを結び付けることができなかつたと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
5	(2)⑤	水産物の生産量が減少した理由	35.1%
	(3)	水産物の生産量と価格の関係	62.7%
6	(3)	森林資源の育成や保護に従事する人の努力や工夫	57.3%

設問5(3)は、水産物の生産量と価格の2つの情報を関連付けて考える問題である。正答率は、62.7%であり、昨年度の複数の資料を関連付け、表現する問題より28.6ポイント上回っている。しかし、複数の情報を関連付け考察することに未だ課題があると考えられる。

設問6(3)は、間伐をする理由を問う問題である。正答率が、57.3%と不十分である。誤答には土砂崩れを防ぐなど、森林の働きを示す記述が見られ、森林資源の育成や保護に従事する人の工夫や努力について考え、記述できていなかった。

複数の資料や情報を関連付けて考察し、表現する力を身に付けさせるためには、以下の指導が必要である。①それぞれの資料から必要な情報を読み取らせること、②資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えさせること、③複数の資料や情報を関連付けて読み取らせること（H23「分析・考察」事例1参照）

## 【国土 (73.2%)】

○：地図帳を用いて、世界の主な大陸や海洋と我が国の国土との位置関係について読み取ること

〔2(1)①③④⑤〕

設問2(1)①③④⑤は、地図帳を用いて、世界の主な大陸や海洋と国土との位置関係について読み取る問題である。日本の島の名称や領域に関する問題の正答率は、80%を超え、概ね良好である。特に、「世界の主な大陸」を問う⑤は、昨年度の類似問題の正答率を31.3ポイント上回り、改善された。地図帳を用いて、世界の主な大陸や海洋と日本の国土との位置関係について読み取る技能については、身に付いてきていると考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	
2	(1)①	日本の島の名称	90.4%
	(1)③	日本の領域	84.5%
	(1)④	日本の位置関係（海洋）	75.2%
	(1)⑤	日本の位置関係（大陸）	75.4%

### 指導改善のポイント

- 資料や既習の知識を基に、考察したことを自分の言葉で表現する力を育成すること（→ 事例1）
- 各種の資料を基に、社会的事象について多面的多角的に考察する力を育成すること（→ 事例2）

※下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針 3

ア 事例 1

資料や既習の知識を基に、考察したことを自分の言葉で表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4(3)	地域学習	地域社会における災害や事故の防止について、資料を活用し、人々の安全を守るための関係機関の働きを考え、理解している。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現

4 下の図は、火事がおきたときの連絡のしくみを表しています。図を見て、あとの問いに答えましょう。

(図略)

(3) 火事がおきたとき、通信指令室(消防かんせい室)から救急病院には、どのような協力をお願いしますか。□にあてはまる文を書き、ふきだしを完成させましょう。

火事でけが人が1人でした。



正答例	誤答例	
4(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・今から救急車で運びます。</li> <li>・受け入れの準備をして下さい。</li> </ul>	4(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>【救急車の出動をお願いしているもの】</li> <li>・早く救急車を出して下さい。</li> <li>・救急車をお願いします。</li> <li>【火事現場に行くように促しているもの】</li> <li>・すぐに現場に向かって下さい。</li> <li>・現場に行き救助して下さい。</li> </ul>	
正答率(準正答率) 21.1%(2.6%)	誤答率 72.1%	無解答率 6.8%

② 指導改善に向けて

誤答例の多くは、通信指令室から救急病院へという条件が付与されているにもかかわらず、救急車の出動をお願いしたり、火事現場に行くよう促したりしているものであった。これは、それぞれの部署がどのような仕事をしているのかを具体的に理解することや、付与された条件にふさわしい文言で表現する力が不十分であることが考えられる。

以上のことから、単元や本時の課題について、資料と既習の知識を関連付けながら自分の考えを適切な言葉や方法を使って表現する活動を工夫する必要がある。また、日頃の指導においても「…ということが分かった。わけは、…」というような表現なども使いながら、学習したことを説明するまとめの活動を継続的に設定していくことも大切である。



### ③ 改善事例 第4学年「水とわたしたち」

#### 1 指導のねらい

調べたことや既習を生かし、「どうすれば水を大切にできるか」を考え、根拠をもとに発表し合い、より考えを深める。

そして、その考えを相手に応じた方法や表現内容を工夫して発信する。

#### 単元計画（11時間扱い）

- ・わたしたちの生活と水（2時間）
- ・水はどこからくるの？（7時間）
- ・水を大切にするためにわたしたち  
にできること（2時間）…（1）（2）

#### 2 具体例 【課題】 《どうすれば水を大切にできるだろうか》

##### （1）調べたことや既習を生かし、根拠を基に水を大切にする方法を交流する。

○単元を貫く学習問題を踏まえ、水を大切にすることの大切さについての意識を高めた上で、調べたことや既習を生かしながら、水を大切に使うための方法について考える。



歯磨きの時に水を出したままにしないでおこうと思います。わけは、水を出したまま歯磨きをすると、6Lの水を使うと勉強したからです。

家族にもお願いして、家庭で取り組みたいです。

山に植樹をして、木を増やせばいいと思います。わけは、森は自然のダムだと勉強したからです。市で植樹をしていることを知ったので、わたしも参加してみたいです。

#### ポイント1

根拠を問うことにより、調べたことや既習を生かしながら、学習内容を再構成し、自分の言葉で表現させる。

末浄水場の「金沢のおいしい水」をもっと宣伝すればいいと思います。わけは、緩速濾過方式の水はおいしいので、宣伝すれば市民の水への関心が高まると思うからです。アイデアを市の方々に伝えてみたいです。



お風呂のお湯を洗濯に使いたいです。わけは、200Lの水を捨てるのはもったいないからです。家族で取り組みたいと思います。

#### ポイント2

誰が努力するものなのかを問うことにより、個人が取組か行政による取組かをはっきりさせ、アイデアで終わることなく、実践につなげる意識を持たせる。

##### （2）水を大切にする方法を家族や行政に発信する。

○「自分たちでできることは、家族へメッセージ」という形で、行政へお願いすることは、「企業局へのお手紙」という形で発信する。

#### 企業局の方へ

先日も末浄水場を見学させていただきありがとうございました。  
～（中略）～「金沢のおいしい水」を宣伝することにより、金沢の水のよさがわかり、水に対する関心が高まると思います。水の大切さを勉強し、私なりに考えたことです。安全でおいしい水を供給してくださっている企業局の方にお伝えたくて、手紙を書きました。よろしくお願いします。

#### ポイント3

発信先をはっきりさせることで、発信しようという意欲を高めるとともに、社会参画の意識を持たせる。

【まとめ】わたしたちの生活に水は欠かせない。そして、その水は健康で安全な生活を営みたいという人々の願いや行政による組織的・計画的な取り組みに支えられている。わたしたちも水を大切にしていかなければならないと思う。節水をするなどわたしにもできることがあることに気づいた。

イ 事例 2

各種の資料を基に、社会的事象について多面的多角的に考察する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(3)	産業	資料に示されている複数の情報を関連付けて考察することができる。	社会的な思考・判断・表現 観察・資料活用 の技能

5 (3) 花子さんは、魚の価格と水あげ量の関係について調べました。うるめいわしの月ごとの価格の上がり下がり、水あげ量とどのような関係がありますか。資料2からわかることを□に書きましょう。

[資料2] うるめいわしの月ごとの1kgあたりの価格と水あげ量 (平成20年8月～平成21年8月)

(農林水産省「農林水産統計」より作成)

正答例	誤答例	
5(3) ・水あげ量の減っている月は、価格が上がり、水あげ量が増えている月は、価格が下がっている。	5(3) 【水あげ量のグラフのみを使っている例】 ・うるめいわしは、9月がよくとれる。 【2つのグラフを使っているが、説明が不十分な例】 ・水あげ量は、9月が一番多く、1kgあたりの価格は、6月が一番高い。	
正答率 (準正答率) 62.7% (23.8%)	誤答率 26.5%	無解答率 10.8%

② 指導改善に向けて

誤答には、資料から読み取れる事象を単に記述しているものが多く、価格の上がり下がりとうるめいわしの水あげ量との関係について関連付けて考察できていなかった。また、無解答率も10.8%と高いことから複数の情報から読み取ったことを関連させて考察することができなかったことが原因と考えられる。

以上のことから、指導に当たっては、資料を基に、社会的事象について多面的・多角的に考察する力を高めるための学習活動を、単元の中に意図的・計画的に位置付けることが大切である。例えば、複数の資料から読み取ったことを地図やグラフにまとめたり、グループなどで調べたことを発表したりする中で、様々な考えを共有する活動を充実させることが考えられる。

③ 改善事例 第5学年「これからの食料生産とわたしたち」

1 指導のねらい

統計などの資料を活用して我が国における食料生産の現状や課題を捉え、これからの食料生産について自分の考えをもち、根拠を明確にして適切に表現する。

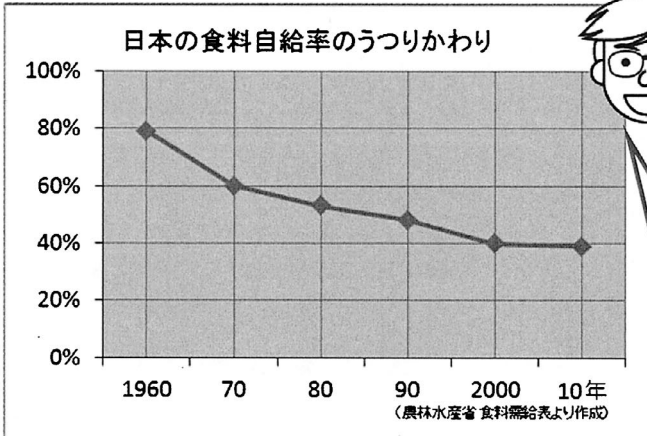
単元計画（5時間扱い）

- ・導入（1時間）・・・・・・・・・・・・（1）
- ・日本の食料生産（2時間）
- ・これからの食料生産とわたしたち（2時間）・・（2）

2 具体例

【課題】《これからの日本の食料生産をどうしていったらいいか》

(1) 日本の食料自給率の推移の資料を読み取り、学習問題をつくる。



ポイント1

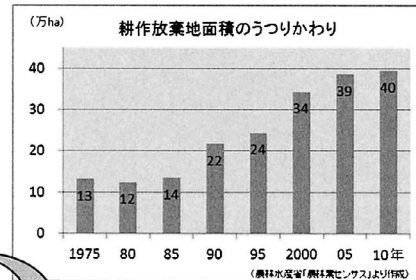
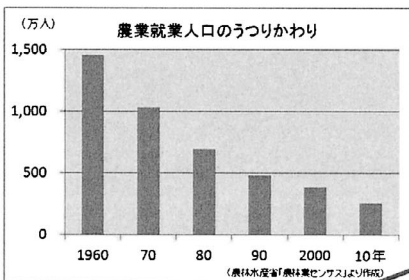
- ①統計資料が表す意味を**具体的に**捉えさせる。
- ②必要な**情報を読み取る観点**を示す。

- ・自給率は年々下がり続けているよ。(全体的な傾向)
- ・1960年の自給率は約80%だよ。  
→現在の自給率は約40%で最低だよ。  
(最高・最大など特徴的な要素に着目)
- ・50年間で自給率は2分の1に減少したよ。  
(どう変化したかを具体的に表現)
- ・1960年からの10年だけで約20%も減少したよ。
- ・最近の10年間は変化はほとんどない。  
(大きな変化、近年の状況に着目)

学習問題 (例)

- ・なぜ、食料自給率がこんなに減少してしまったのか。  
(この50年間にどんな変化が起こったのか。その原因として考えられることは。)
- ・食料自給率がこんなに減少しても問題はないのか。
- ・食料自給率を向上させるためには。(自給率低下を解決する対策はされているのか。)

(2) これからの食料生産について考え、統計資料を根拠に、自分の考えをまとめる。



- ・農業で働く人も減少し続けて、約6分の1になっているよ。  
その反対に、作物が作られる予定のない田畑(耕作放棄地)は年々増え、35年前の約3倍に増加しているよ。
- ・農業をする人が減るのともなって、耕作放棄地の面積が増えている。農業をする人が減ったから、農業をすることが難しくなって、作物が作られていない土地が増えたんだ。それが自給率が低下している原因なのかも…。

ポイント2

- ①資料の間に**どんな関連があるか**を考える。
- ②考えの**根拠となる資料**を収集したり選択したりして、自分の考えを表現する。

※他にも多様な資料を収集し、読み取った事実を根拠にして、自分の考えを表現させる。

【まとめ】農業をする人が減少し、十分な食料や安全性の確保、環境への影響が心配だ。安心・安全でおいしい食料を確保するために、国内の農業を発展させる工夫をみんなで考える必要がある。



中学校 第3学年  
「社会」「英語」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は56.9%で、昨年度に比べ3.5ポイント上がっている。その要因として、地理的分野で、資料から必要な情報を的確に読み取る技能に改善傾向が見られたことが挙げられる。しかし、複数の資料を関連付けて考察することや社会的事象について既習を生かして適切に表現することに課題が見られる。また、歴史的分野で、歴史的事象を時代区分に位置付けて理解することにも課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野 (66.5%)】

○：資料から必要な情報を的確に読み取ること〔1(6)①, 5(1)(2)〕

設問1(1)⑥, 設問5(1)(2)の正答率は、それぞれ81.7%, 74.6%, 89.5%と概ね良好である。設問5(1)は、わが国の貿易に関する主題図を読み取り、示された条件に合う国を選ぶ問題であり、21年度の類似問題の正答率76.5%と比べても、改善傾向が見られる。これらのことから、資料から必要な情報を的確に読み取る力が身に付いてきていると考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率
1(6)①	グラフの読み取り	89.5%
5(1)	主題図の読み取り	81.7%
5(2)	主題図の読み取り	74.6%

▼：複数の資料を関連付けて考察すること〔3(2)③〕

設問3(2)③の正答率は48.6%であり、不十分である。「昼間の人の流れが多い」という誤答が多いことから、「昼間の人の流れ」には着目できているが、資料2が示す大阪府に人が

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
3(2)③	複数の資料の関連付け	48.6%	16.2%

集まっていることや資料3の表題にある「事業所数」との関連性を見い出せていないと考えられる。また、無解答率も高く、2つの資料を関連付けて考察する力が身に付いていないと考えられる。更に、準正答の多くは「大阪府」が抜けているものであり、設問に対して適切に表現する力に課題が見られる。

複数の資料を関連付けて考察し表現する力を高めるには、次のような学習を積み重ねる必要がある。

- ① 資料の見方を丁寧に指導し、一つ一つの資料から必要な情報を読み取る学習
- ② 資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える学習
- ③ 複数の資料から読み取ったことを比較したり関連付けたりして考察し、表現する学習

(H20「分析・考察」事例2, H22「分析・考察」事例1 参照)

▼：資料や既習の知識を基に、社会的事象について適切に表現すること〔1(6)②, 5(3)〕

設問1(6)②の正答率は55.3%であり、「海洋国(島国)」や「離島」の既習の知識を用いていない誤答が多く見られた。設問5(3)の正答率は47.6%であり、「工業製品」や「原材料」など、品目の総称の知識を用いていない誤答が多く見られた。また、無解答率も高く、資料や既習の知識を基に、社会的事象について適切に表現する力が身に付いていないと考えられる。

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
1(6)②	国土面積と領海・経済水域	55.3%	10.4%
5(3)	主題図の読解・解釈	47.6%	16.1%

授業の終末や単元末において、資料や既習の知識を活用し、学習した社会的事象について適切に表現させる指導を継続的に行っていく必要がある。

## 【歴史的分野(46.8%)】

### ▽：歴史的事象の意味・意義を解釈し、表現すること〔6(4)(5)〕

設問6(4)(5)の正答率は、60%程度で、十分とはいええず、無解答率も高い。6(4)の誤答には、物の値段が上がったことしか記述されていないものも多く見られた。このことから、絵やグラフから事実を読み取って

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
6	(4) 開国後の庶民の暮らし	63.9%	16.0%
	(5) 戊辰戦争時の関係図	60.4%	15.2%

はいるが、その事実から考察したり、考察したことを表現したりする力に課題がある。6(5)は昨年度の歴史的事象の背景を図で表現させる設問の正答率32.7%を大きく上回ってはいるが、まだ十分とはいえない。開国から江戸幕府が滅亡し、明治新政府が成立するまでの過程を欧米諸国の動きと関連付けて理解していないことや、図や表を用いて説明することに慣れていない状況が覗える。

指導に当たっては、歴史的事象の意味・意義について自分の言葉で適切に説明したり、まとめたりする活動を単元や本時の学習に位置付け、内容理解を深めていくことが重要である。その際、文章だけでなく図や表などを使って説明するなど、言語活動の充実を図ることが必要である。(H21「分析・考察」事例2, H22・23「分析・考察」参照)

### ▼：歴史的事象について理解すること〔2(1)(2), 4(1), 6(1)(2)〕

設問2(1)(2)は、資料の中に桓武天皇とあるにもかかわらず、平安時代と捉えられず、「平城京」や「鑑真」「親鸞」など他の時代の事象を選択している。設問4(1)、6(1)(2)についても同様である。これらのことから、歴史的事象を時代区分に位置付けて理解することは、不十分である。

設問番号	問題の内容	正答率
2	(1) 歴史的事象(平安京)	58.8%
	(2) 歴史上の人物(最澄)	24.1%
4	(1) 歴史上の人物(源頼朝)	53.2%
6	(1) 歴史的事象(出島)	69.2%
	(2) 歴史的事象(株仲間)	47.1%

指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・年表を活用するなど、歴史の大きな流れの中で歴史的事象を理解させること
- ・歴史的事象について因果関係を明確にし、歴史的事象への認識を深めさせること

(H20「分析・考察」事例 H23「分析・考察」事例2参照)

### ▼：時代の特徴を捉えること〔2(3)(5)(6), 4(3)(5)〕

設問2(3)(5)(6)、4(3)(5)の正答率は、50%を割り、不十分であり、特に文章で表現させる2(5)や4(3)では無解答率も高い。各時代の政治や文化の特徴を踏まえて歴史の大きな流れが捉えられていない。

指導に当たっては、単元で学習した内容をふり返り、その時代の特徴を前の時代と比べて考察し、その時代がどんな時代だったかを説明させることが必要である。(H22「分析・考察」事例2 H23「分析・考察」事例2参照)

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
2	(3) 各時代の特徴(飛鳥時代)	34.7%	0.6%
	(5) 各時代の特徴(天平文化)	11.5%	26.2%
	(6) 時代の大きな流れ	48.7%	1.1%
4	(3) 資料の読解・表現(分国法)	28.5%	28.0%
	(5) 複数の資料の関連付け	43.4%	3.5%

### 指導改善のポイント

- 複数の資料から読み取ったことを関連付けて、自分の考えをまとめる力を育成すること(→事例1)
- 歴史的事象を歴史の大きな流れの中で理解させ、その定着を図ること(→事例2)
- 統計グラフや地図、地球儀、年表など基礎的資料を活用する学習を充実させること

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針 2

ア 事例 1

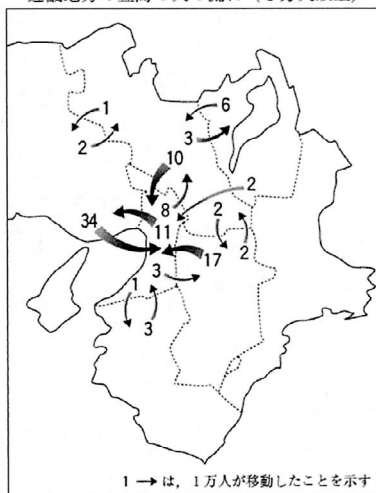
複数の資料から読み取ったことを関連付けて、自分の考えをまとめる力を育成すること

① 問題と解答の状況

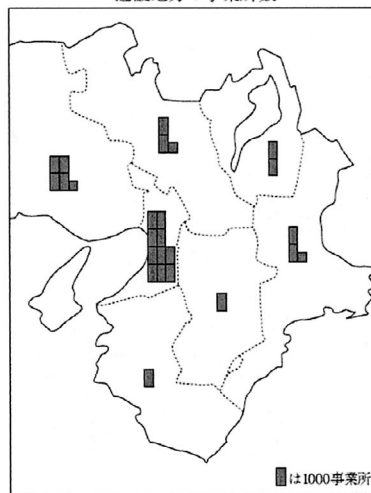
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
③ (2)③	地理的分野	複数の資料を関連付けて読み取り、考察することができる。	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現

③ (2)③ 資料1から、近畿地方の府県では昼夜間人口比率に差があることがわかります。近畿地方の人の流れにはどのような特徴があると考えられるか、資料2と資料3を関連付けて書きなさい。

[資料2] 近畿地方の昼間の人の流れ (1万人以上)



[資料3] 近畿地方の事業所数



正答例	誤答例	
昼間は、他府県に比べて事業所が多い大阪府へ人々が集まっている。	<p>【大阪府に事業所が多いことを読み取っていないもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間に大阪府に人が多く集まっている。</li> </ul> <p>【昼間の人の流れを読み取っていないもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が多い大阪府に人が集まっている。</li> </ul>	
正答率 (準正答率) 48.6% (24.2%)	誤答率 35.2%	無解答率 16.2%

② 指導改善に向けて

誤答では、資料2から読み取れる「昼間の人の流れが大阪府に集中していること」の根拠を資料3の「近畿地方では大阪府の事業所数が一番多いこと」と結び付けて考察することができないものが多かった。無解答率も16.2%と高い。

指導に当たっては、資料から読み取ったことを表現する学習活動を單元の中に意図的・計画的に位置付けることが大切である。その中で、複数の資料を比較したり、関連付けたりして社会的事象を考察し、表現する学習活動を展開していく必要がある。



③ 改善事例 第1学年「世界の諸地域～オセアニア州～」

1 指導のねらい

既習の知識を基に、複数の資料を関連付けて、オセアニア州とアジアとの結びつきが深まってきたことを考察し、適切に表現できるようにする。

単元計画（4時間扱い）

- オセアニア州を大観する（1時間）
- オーストラリアからアジアとのつながりを考える
  - \*資源・産業の面から（1時間）
  - \*観光・移民の面から（1時間）
- 主題について考える（1時間）

世界の諸地域の学習は、主題を設けて、州の地域的特色を理解させる。

2 オセアニア州の主題

オセアニア州がアジアとの結びつきを深めてきたのはなぜだろうか？

3 具体例（2/4）

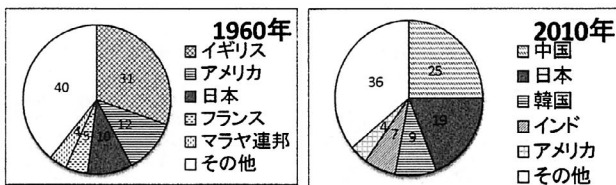
**課題** 資源や産業に関して、オーストラリアはアジアとどのように結びついているだろうか？

(1) オーストラリアの貿易の特徴を読み取ろう！



変化の特徴を読み取ろう

A オーストラリアの貿易相手国の変化



貿易相手国はこの50年で中国や日本・韓国などのアジアの国々の割合が高くなってきているね。



B オーストラリアの貿易品の変化

	1960年	2010年
輸出①	羊毛 41%	石炭 21%
②	小麦 8%	鉄鉱石 19%
③	肉類 7%	金 6%
輸入①	機械類 20%	機械類 26%
②	自動車 10%	自動車 13%
③	石油 7%	石油 8%

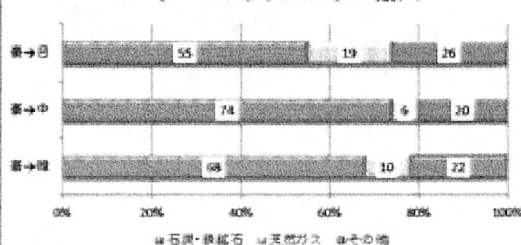
羊毛・小麦・肉類などから、石炭・鉄鉱石などの資源の割合が増えてきている。輸入品はあまり変わっていないけど、アジアの国とのかかわり確かめられる資料が見たいな。



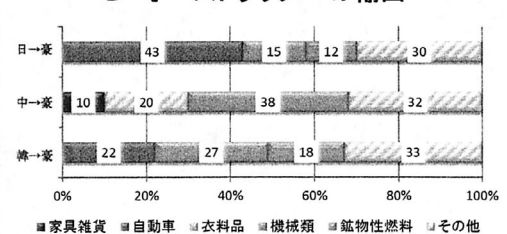
貿易の特徴を読み取ろう

(2) オーストラリアとアジアの貿易の特徴を読み取ろう！

C オーストラリアからの輸出



D オーストラリアへの輸出



(資料は、世界国勢図会 2012/13 などにより作成)



Cのグラフから、アジアに石炭などの鉱産物を輸出しているが分かります。輸入はDのグラフから読み取れるように、機械類や自動車の割合が多いので、工業原料となる資源を輸出し、加工された工業製品を輸入する関係にあります。

(3) 資料から読み取ったことを関連付けて、オーストラリアとアジアの結びつきの特徴をまとめよう！

**まとめ** 複数の資料を関連付けて考察したことを表現する。



資料を関連付けて、オーストラリアとアジアの結びつきの特徴を捉えることができたね。

中国・日本・韓国の3ヶ国から分かるように、アジアは、オーストラリアと貿易での関係を深めています。輸出する品目は農産物だけでなく、鉱産資源が増えており、実際に各国間の貿易を見ても、資源を輸出し、工業製品を輸入する関係であることが分かります。



イ 事例 2

歴史的事象を歴史の大きな流れの中で理解させ、その定着を図ること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2 (6)	歴史的分野	時代の大きな流れについて適切に判断し、表現することができる。	社会的な思考・判断・表現

2 ゆりさんは、古代史に登場する人物とそのできごとを下のようなA～Dの4枚のカードにまとめました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

A

桓武天皇

- ① 現在の京都市に都を移す。
- 坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命。
- ② 新仏教の設立を助ける。

B

聖徳太子

- ③ 冠位十二階の制度や十七条の憲法を定める。
- 遣隋使を派遣する。

C

④ 平 清盛

- 保元の乱、平治の乱を取める。
- 武士として初めて太政大臣となる。
- 神戸港を整備する。

D

⑤ 聖武天皇

- 国分寺、国分尼寺建立の詔を出す。
- 墾田永年私財法を定める。
- 東大寺大仏造立。

(6) A～Dの4枚のカードを時代の古いものから順に並べ、その記号を書きなさい。

正答例	誤答例	
B→D→A→C	B→A→D→C, B→A→C→D, B→D→C→A	
正答率	誤答率	無解答率
48.7%	50.3%	1.1%

② 指導改善に向けて

カードの中には、それぞれの時代を代表する人物とその人物が行ったことが明記されているにもかかわらず、正答率は、48.7%と低くなっている。これは、歴史的事象を歴史の大きな流れの中で理解していないことや時代区分を含め、基礎的・基本的な知識の定着が不十分であることが原因と考えられる。

指導に当たっては、歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解させること、また、歴史的事象を十分に理解させたうえで時代の特色を捉えさせることが必要である。各時代の「導入」では、小学校での既習を生かして、その時代のイメージを表現させたり、前の時代との違いを予想させたりすることなどで、時代の特色の究明に向けた課題意識を育成すること、「まとめ」では、学習した内容を活用して、他の時代との共通点や相違点に着目させながら時代の特色を自分の言葉で表現させることが大切である。授業の始めに本時で学習する時代や世紀を確認することや年表・既習事項を掲示することも歴史の流れをつかませるうえで有効である。

③ 改善事例

第1学年「古代までの日本」

1 指導のねらい

- ・ 歴史的事象(史実)を種別順別に分類整理する力を付ける。(基本的な知識の定着)
- ・ 史実間や時代間の関連性や相違点を発見して史実の意義を解釈し、多面的多角的に歴史をつかんで、歴史を語るができるようにする。(活用力の育成)

2 具体例

**課題** 「飛鳥時代以降の古代の日本はどのような時代だったか」



横の流れを見るんだよ

(1) 歴史的事象を政治、経済、外交などに分類し、それぞれ古い順に並べよう！

政治	憲法十七条 → 大化の改新 → 大宝律令 → 平城京 → 平安京 → 摂関政治
経済	公地公民 → 班田収授法 → 墾田永年私財法 → 荘園
人物	聖徳太子 → 中大兄皇子 → 聖武天皇 → 桓武天皇 → 藤原氏
外交	遣隋使 → 遣唐使 → 白村江の戦い、新羅の朝鮮半島統一 → 遣唐使の停止
文化	飛鳥文化 → 天平文化 → 国風文化 法隆寺 → 東大寺・正倉院 → 天台宗・真言宗 → かな文字 → 浄土信仰



縦の関係を  
見るんだよ

(2) 並べた歴史的事象を、つながりや関連性のあるものに分けよう！

聖徳太子 遣隋使 飛鳥文化	聖武天皇 遣唐使 天平文化	遣唐使の廃止 国風文化	(史実の背景を考察)
---------------------	---------------------	----------------	------------

(3) 並べた歴史的事象から、特に重要度が高いと思われるものをいくつか選び、選んだ理由を書こう！



墾田永年私財法だと思うよ。それによって私有地が増え、多くの荘園を持った藤原氏が台頭してきたんだよ。

遣唐使の廃止が重要度が高いと思うよ。日本の風土にあった国風文化が生まれ、かな文字で書かれた「源氏物語」などの日本文学が作られたんだよ。

変化や転換をもたらすきっかけとなったもの、その後の時代に大きな影響を与えたもの、その時代を代表するものは何だろう？

(4) 重要度が高いと判断したことを、根拠をもとに発表しよう！ (自分の考えの再構成)



みんなの意見を聞いて新たに分かったことは？

- ・ 古代の日本が天皇中心の国づくりを進めたのは、朝鮮での動き（新羅が勢力を強めたこと）も関係があったんだ。
- ・ 古代の前半と後半では政治や文化に変化が見られるんだ。

(5) **まとめ** 再構成した自分の考えをもとに、課題について、短い文で表現する。

みんなの考えを参考にして時代の特色をまとめることができたね。



「飛鳥時代以降の古代の日本は、中国の制度を取り入れて律令国家のしくみを整え、天皇や貴族を中心とする政治が行われた時代だ。」

「飛鳥時代以降の古代の日本は、中国や朝鮮の文化を取り入れ、それをもとにした文化が発展した時代だ。」



「飛鳥時代以降の古代の日本は、政治のしくみが整えられたが、天皇・貴族と農民の貧富の差は大きな時代だ。」

(1) 全体的な傾向の分析・考察

今年度の平均正答率は63.5%で、昨年度より7.7ポイント上がっている。聞くことの領域で、絵の内容を表す短い英文を正しく理解することが良好だったことなどが要因である。しかし、まとまりのある英文を適切に読むことや書くこと、場面や状況に応じて正しく書くことには、これまで同様、課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと (70.8%)】

◎：ポイントとなる語を聞き分けて、絵の内容を表す短い英文を正しく理解すること〔1〕

設問1は、全ての問題で正答率が90%を超えており、ポイントとなる語を正しく聞き分けて、絵の内容を表す短い英文を正しく理解することは、良好である。

設問番号	問題の内容	正答率
1	No. 1 絵についての英文 (場所を表す前置詞) の聞き取り	90.4%
	No. 2 絵についての英文 (天気を表す語・接続詞) の聞き取り	94.8%
	No. 3 絵についての英文 (比較表現) の聞き取り	93.7%

▽：話しかけに応じること〔2〕

設問2 No.1のMay I ~?に応じることは、基準に到達しており、No.3のHow long~?に応じることは、20年度の同問の正答率53.0%を12.9ポイント上回った。しかし、No.4のWhen did ~?に応じることは、23年度の同問と同様に不十分である。話しかけに応じることは十分とはいえ、質問に即答する練習は多く行われているものの、定型的な応答以外でも、話しかける内容を瞬時に判断し、正しく応じる技能の向上が求められる。

設問番号	問題の内容	正答率
2	No. 1 話しかけ (May I ~ ?) に応じること	75.1%
	No. 3 話しかけ (How long ~ ?) に応じること	65.9%
	No. 4 話しかけ (When did ~ ?) に応じること	55.0%

指導に当たっては、教師がこれまで以上に英語を用いて授業を行うことに努め、生徒が場面や状況を推測しながら英語を聞いて応答する機会や、生徒自身が問いかける場面を増やすことが大切である。

【読むこと (62.2%)】

▽：語句や文法の知識を活用して、短い英文の内容を正しく読み取ること〔4〕

設問4(5)の気持ちを伝える英文の理解は基準に到達しているが、全体としては、短い英文の内容を正しく読み取ることには十分とはいええない。(1)では、正答のhis classに対してhe's classの誤答が多く、人称代名詞の所有格が定着していない。また、(4)のThe white one is.で、代用形のoneを数字の1と勘違いした誤答が多く、文脈にふさわしい語句の意味を判断できていないことも課題である。

設問番号	問題の内容	正答率
4	(1) 人称代名詞 (所有格) を用いた英文の理解	57.4%
	(4) 疑問詞 (which) を用いた英文の理解	54.3%
	(5) 言語の働き (気持ちを伝える) に応じた英文の理解	72.2%

指導に当たっては、言語の働きと使用場面を意識した導入や練習を行い、形・意味・用法を合わせて理解させることが大切である。特に、品詞について、英文中での働きに関する知識を確実に定着させることが重要である。

▼：まとまりのある英文を読んで、情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を読み取ること〔7, 8(2)(3)〕

設問7では、誤答例を見ると、時間を追って列挙された情報や watch TV という語句は認識しているが、I wanted to watch a soccer game....から、続く So I didn't watch TV. After I studied に至る全体の意味を理解できていないことによる誤答が多く見られた。

設問番号	問題の内容	正答率
7	全体の概要の読み取り	49.3%
8	(2) 大切な部分 (理由) の読み取り	55.5%
	(3) 話の詳細な情報の読み取り	63.1%

設問8では、賛成の理由や具体例が書かれている箇所を判断できていないことによる誤答が見られた。以上のこ

とから、2文以上に渡る情報を整理して、全体の概要や大切な部分を適切に読み取ることは不十分である。

指導に当たっては、全体の概要を読み取らせるために、主題を問う発問を事前に与えたり、5W1Hを考えながら読ませたりすることが必要である。また、大切な部分を読み取らせるために、次のような工夫が必要である。

- ① 全体の概要を踏まえて、情報を時系列などで整理したり図式化したりしながら読ませること
- ② 短時間で理解できるよう、意味のまとまりごとに読み進める習慣を身に付けさせること
- ③ 教科書本文の読み取りを通して身に付けた知識・技能を、類似の話題や同レベルの語彙・文法事項を用いた別の英文を読む活動に活用させる機会を設定し、複数回の評価を行うこと

(H23「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所) 事例2 参照)

### 【書くこと (58.5%)】

#### ▼：語句や文法の知識を活用して、場面や状況に応じて正しく書くこと〔5, 9〕

設問5の(3)では、接続詞 if の後の主語・動詞の語順の誤答、(5)では、前置詞 with の位置が適切でない誤答が多かった。また、設問9では、語と語をつなぐ接続詞や主語に応じた動詞の形を正しく補っていない誤答が多かった。以上のことから、語句や文法の知識

設問番号	問題の内容	正答率	無解答率
5	(3) 接続詞 if を用いた英文の語順	42.0%	0.8%
	(5) 前置詞句の後置修飾を用いた英文の語順	42.0%	1.6%
9	(2) 状況に合う英文(接続詞)への書きかえ	43.2%	13.5%
	(3) 状況に合う英文(動詞)への書きかえ	40.9%	7.6%

を活用して、場面や状況に応じて正しく書くことは不十分である。

今後は、日本語との違いを比較しながら英語特有の語順を理解させる必要がある。例えば、従属接続詞 if の指導では、前後の文の関係を考えさせながら A if B, B if A のどちらが正しいかを判断させる指導や、英文のまとまりを意識して繰り返したり音読したりすることで英語特有の語順の定着を図る工夫が求められる。

状況に合う英文への書き換えの指導に当たっては、次のような指導が必要である。

- ① 会話を客観的に書き換えたり、理解したことを自分の言葉でまとめたりするなど、4技能の統合的な指導
- ② 人称代名詞や、時制・三人称単数現在形などの動詞の形に気を付けながら、正しく書けるようにすること

#### ▼：自分の考えや気持ちが正しく伝わるように、まとまりのある英文を書くこと〔10〕

設問10では、無解答率が昨年度に比べ8.8ポイント減少したものの、正答率は5.6ポイント下回り、内容が伝わらない文を含んだ誤答や指定された文数に満たない誤答が多く見られた。また、本設問は、22年度の国調査と同問である。正答率は

年度	問題の内容 (テーマ)	正答率	無解答率
22	「自分の好きなこと(もの)」	29.1%	23.1%
23	「学校の先生紹介」	39.5%	29.2%
24	「お勧めの季節」	33.9%	20.4%

国を下回り、無解答率も国より高く、まとまりのある英文を書くことは不十分である。(H24「特定の課題に関する調査(英語：書くこと)調査結果」参照)

今後は、第1学年から既習の語彙や文法を用いながら一貫した英文を書くことを習慣付けるとともに、接続詞や副詞等を用いて文と文のつながりを工夫しながら、自分の考えや気持ちが伝わるよう適切に書く指導も重要である。指導に当たっては、系統的な指導計画を整備し、各学年段階の学習到達目標を CAN-DO リストの形式で具体化し、到達状況を点検、評価する必要がある。

#### 指導改善のポイント

- 日本語訳を介さずにまとまりのある英文に触れる機会を確保し、情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を理解する力を高めること (→ 事例1)
- 4技能の統合的な指導を工夫して、理解したり表現したりする必然性を高めながら、身に付けた知識や技能を活用する力を高めること (→ 事例2)

※ 下線の箇所は、改善に向けた具体的な指導の在り方を示している。

(3) 改善に向けた指導事例

学びの指針 1

ア 事例 1

日本語訳を介さずにまとまりのある英文に触れる機会を確保し、情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を理解する力を高めること

① 問題と解答の状況

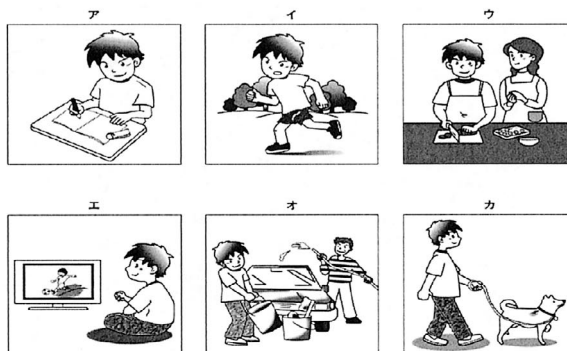
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7	読むこと	全体の概要を適切に読み取ることができる。	外国語理解の能力

7 次郎さんは、英語の授業で、「私の一日」というテーマで作文を書きました。次の英文を読み、次郎さんがしたことを表す適切な絵をア～カから4つ選び、行動した順番に並べなさい。

Last Sunday, I did many things. In the morning, I washed my father's car with him. Then I took my dog for a walk. We enjoyed walking in the park.

My mother and I went shopping after lunch. We bought a lot of food for dinner. In the evening, I cooked dinner with my mother. Everyone said, "Today's dinner is very good." When I heard that, I was very happy.

I wanted to watch a soccer game on TV after dinner, but I had to study a lot. So I didn't watch TV. After I studied, I went to bed at eleven twenty.



正答例	誤答例	
オ→カ→ウ→ア	オ→カ→ウ→エ / オ→カ→エ→ア	
正答率	誤答率	無解答率
49.3%	49.8%	0.9%

② 指導改善に向けて

設問7では、第3段落で次郎さんが結局何をしたのかについて、語彙や文法事項を処理しながら得られた情報を整理できなかった生徒が多かった。そのような力を身に付けるためには、教科書中の語彙や文法事項の知識を定着させ、内容を正確に読み取る技能を習得させるとともに、それらの知識・技能を活用して目的に応じた速度や方法で、初見の文章の全体像を適切に読み取る練習が必要である。その際、日本語訳を介さずに別の平易な表現で書き換えられた英文を補助として理解を深める活動が有効である。また、時間や順序、原因・結果、例示など、文章構造をつかむためのシグナルに注目しながら情報を整理する活動も有効である。

③ 改善事例 第2学年（学習段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

まとまりのある英文を読んで、情報を整理しながら全体の概要や大切な部分を読み取る力を育成する。

日本語訳を介さずに英文に触れる機会を、十分に確保しましょう

◇類似の文章やパラフレーズにより原文の理解を促進する事例  
◇ジグソー・リーディング、フレーズ・リーディングによる事例は、「H20分析・考察」を参照

2 具体例

<ステップ1>

"Summer Vacation in Thailand" (New Horizon English Course 2 Multi+ 1 Challenge) により、

(1) 数や時などの情報（月、期間、気温）を整理しながら意味をつかむ方法を学ぶ。

(2) 段落構成を意識しながら、次の2点を読み取る。

① タイでは、暑い3月末から2か月の夏休みが始まること

② 4月の正月祭りには、気候に合った風習を楽しむこと

<ステップ2>

教科書と似た題材の英文を読んで、文章構成を考えながら、先の文章と内容を比べる。

**Part 1** 教師による英語の口頭説明を聞き、場面・状況を把握する。

From the textbook, we learned people in Thailand have two New Year's Days in one year. Is it the same in other Asian countries? This card came from a Malaysian boy. He came to Japan and stayed with my family for three weeks. He's a good English speaker.

Two sentences are missing in the next text. Where should we put them? And why do you think so?

読み取るべき内容を話さないこと、短時間で導入することが大切です

**Part 2** マレーシアの正月はタイと共通点があるのか、考えながら読む。

Hi, everyone. It's the Chinese New Year again. This year, it's on the 14th of February.

I can't send cookies because I'm not in Malaysia this year. Every year my family gathers at home for dinner on New Year's Eve. We visit relatives and friends, and eat delicious cookies and cakes during New Year's vacation.

On this card, you can see many carp. They are quite common in Japan, I think. I hear you often eat them and say, "We are happy!" We like them, too. We think fish represents luck, so we like to eat fish or have pictures of fish during Chinese New Year.

I wish you a happy, healthy, wonderful year.

Best wishes,  
Goh

**Part 4** パラフレーズされた次の英文を読んで、原文の理解を確かめる。

Hi, everyone. We have two New Year's. We have one New Year on January first and have the other New Year in January or February. The other New Year is on a different day every year, and we have it on February 14th this year.

Now I'm not in Malaysia, so I can't send Malaysian cookies to you. I gave you cookies by air mail last year, but I can't do it this year. I'm sorry. My mother makes cookies for me. I really want to eat them but I can't, so I am very sad. Every year my parents, brothers and sisters come back home and eat dinner together on New Year's Eve. We visit uncles, aunts, cousins and friends. Then we eat delicious cookies and cakes.

Many fish are on this card. Japanese people know this kind of fish well, right? They are carp, and you call them 鯉 in Japanese. You often eat 鯉 and say, "Medetai." You want to be happy, don't you? We Chinese like them, too. We cook fish and have pictures of fish during Chinese New Year. For us, fish are a symbol of good luck. We want to be happy, too.

I say on the card, "Please have a happy, healthy, wonderful year."

Best wishes,  
Goh

**Part 3** 次の英文は上の文章のどこに入るか考え、自分の考えの根拠とともに、説明する。

I'm sorry. I really miss my mother's cookies.



第2段落の1文目の後です。段落全体が cookies について書かれ、今年は送れないこととその理由を述べた後で、わびていると思うからです。

語彙・文法事項の簡略化、代名詞が指し示すものや補足の説明などにより、平易な英文に書き換えて、生徒に読ませましょう

イ 事例 2

4 技能の統合的な指導を工夫して、理解したり表現したりする必然性を高めながら、身に付けた知識や技能を活用する力を高めること

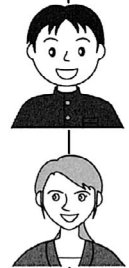
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
9	書くこと	状況に合う文に書きかえることができる。	・外国語表現の能力 ・言語や文化についての知識・理解

9 和也さん (Kazuya) は、英語クラブの新聞記事を書くために、新しい ALT のブラウン先生 (Lucy Brown) にインタビューしました。インタビューを参考にして、下の紹介文の ( 1 ) ~ ( 3 ) にあてはまる単語または語句を書きなさい。

【インタビュー】

Hello, Ms. Brown. Where are you from?  
 — I'm from New York.  
 Do you speak Japanese?  
 — A little. I studied Japanese in America.  
 What do you want to do in Japan?  
 — I want to learn about Japanese music. I want to learn about Japanese festivals, too.  
 Do you have any messages for the students?  
 — Hello, everyone. I'm Lucy Brown. Let's study English together. Do you like tennis? I like to play tennis very much. I hope I can play it with you after school. See you soon!



《紹介文》

**Our New ALT**

This is our new English teacher, Ms. Lucy Brown.  
 She ( 1 ) from New York.  
 She studied Japanese when she was in America.  
 She wants to learn about Japanese music ( 2 ) festivals.  
 She ( 3 ) tennis very much. So she wants to play it with us after school.



正答例		誤答例	
(1) is / comes / came	(2) and / and Japanese	(3) likes (to play, playing) / enjoys (playing)	(1) was / has
			(2) to / Japanese / too
			(3) plays / play / playing
正答率 (準正答率)		誤答率	無解答率
(1) 84.0% ( 0.3%)	(2) 43.2% ( 0.0%)	(3) 40.9% (10.2%)	(1) 9.1%
			(2) 43.4%
			(3) 51.4%
			(1) 6.9%
			(2) 13.5%
			(3) 7.6%

② 指導改善に向けて

設問 9 では、立場を変えて、インタビュー内容を別の表現に書き換えることが、不十分であった。場面や状況に応じて適切に伝える力を養うには、書くことの指導を行う際、十分なインプット量を確保しないと、書く内容を日本語で考えることに時間がかかり過ぎるので、英語力を高める上で効率が悪い。教科書本文の内容を自分の言葉で言い換えたり、自分の考えを加えて書いたりするなど、4 技能の統合的な指導を工夫する必要がある。それによって、理解したり表現したりする必然性が高い言語活動にもなる。



③ 改善事例 第2学年（学習段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

4技能の統合的な指導を工夫して、理解したり表現したりする必然性を高めながら、身に付けた知識や技能を活用する力を高める。

◇再話 (Retelling), 筆記による再生により書く力を高める事例

◇教科書のQ&Aを書くことにつなげる事例は、「H19指導資料集」参照

2 具体例 ※対話は省略

(1) 教師とALTとの対話の内容を聞き取る。

(2) 聞き取った内容を確認する。

①テーマ ②行った場所 ③したこと ④感じたこと

(3) 聞き取った内容をペアの相手に口頭で再話する。

[ALT] went to Kyoto this summer vacation with his friend. He visited Kinkaku-ji and Ginkaku-ji there. He likes Kinkaku-ji better because it is covered with gold leaf and very beautiful. He was surprised to learn that Kanazawa produces almost all of the gold leaf in Japan.

再話を予告し、聞く集中力を高めましょう



If you don't think you did well at this stage, please try hard, and you'll do well later.

(4) 必要なら、次で想定される質問と応答の練習をする。

(5) 聞いた内容を伝えられるように、ペアの相手が言ったことを言い換える練習をする。

ステップ1【基礎編】

①教師は、生徒の対話をコントロールするための質問を与える

- ・ Where did you go this summer?
- ・ What did you do there?
- ・ Did you enjoy it? など

②代表生徒(Student A)は教師やALTの質問に回答する

③ALTはStudent Aの言ったことを繰り返したり、問い返したりして会話を続ける

例：

**Teacher** : Where did you go this summer?

Student A : I went to Osaka.

ALT : With your friend?

Student A : No, with my family.

ALT : Oh, you went there with your family.

**Teacher** : What did you do there?

Student A : I ate *takoyaki*.

ALT : You ate *takoyaki*. Did you eat *okonomiyaki* too?

Student A : Of course! They are my favorite Japanese dishes and very delicious.

ALT : You ate *takoyaki* and *okonomiyaki* because they are your favorite foods!

Student A : I want to eat *kushikatsu* next time.

**Teacher** : Did you enjoy it?

Student A : Yes! I want to go to Osaka again.

ステップ2【応用編】

④ステップ1の①と同じ

⑤各ペアで別々の対話をし、Student AはStudent Bの質問に回答する(手順1のインタビュー役をStudent Bが行う)

⑥Student BはStudent Aの言ったことを繰り返したり、問い返したりして会話を続ける

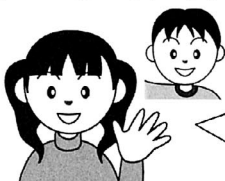
⑦Student A・Bは役割を交代して、④～⑥の手順を繰り返す

夏休みの様子についての対話を続けるには、インタビュー役はどのような内容を話せばよいのかな？



(6) 対話の内容を、自分の立場から、筆記で再生する。

ステップ2の場合は、ペア毎にStudent A・Bが互いのことを報告するとよいでしょう



[Student A] went to Osaka with his family. His favorite foods are *takoyaki* and *okonomiyaki*, and he ate both of them. He wants to eat *kushikatsu* next time. He enjoyed his summer vacation in Osaka and wants to go there again.

(7) 報告文を生徒同士で交換して、読み比べ、共通点や相違点を話し合う。

(8) 人称代名詞の照応関係や動詞の語形変化などが正しく書けているか確認する。

(9) 教師・ALTに報告文を提出し、指摘を受けた箇所を書き直す。



## Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察



# 1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好きと答えた児童の割合は89.7%であり、調査開始以来最も高い。また、各教科等の勉強が好き、授業の内容がよく分かると答えた児童の割合も多くの教科で調査開始以来最も高くなっており、一般的に小4児童の学習意欲は高い。

## 学びの指針 7

- 宿題をしていると答えた児童の割合は97.3%であり、調査開始以来最も高い。また、家庭学習量については、これまでと同程度である。
- 朝食を毎日食べていると答えた児童の割合は97.0%であり、これまでと同様に高いが、携帯電話で通話やメールをしていると答えた児童の割合は、23年度に比べて増加しており、今後注意を要する。

## 学びの指針 8

- 読書は好きだと答えた児童の割合は88.5%であり、これまでと同様に高い。

## 学びの指針 10

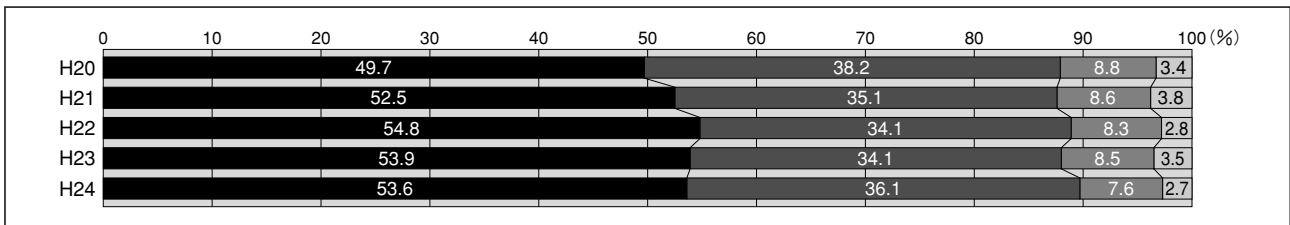
- ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがあると答えた児童の割合は92.1%であり、調査開始以来最も高い。
- 将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合は86.2%、自分にはよいところがあると答えた児童の割合は81.2%であり、これまでと同程度である。

※無回答を除いた割合で示している。

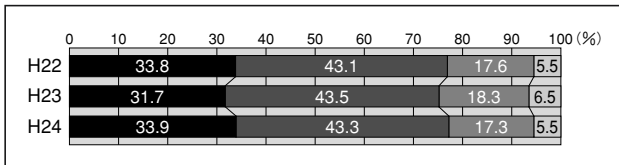
## 1 学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

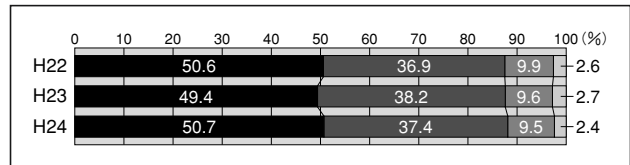
《学校は好きだ》



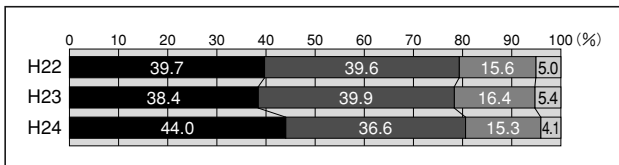
《国語の勉強は好きだ》



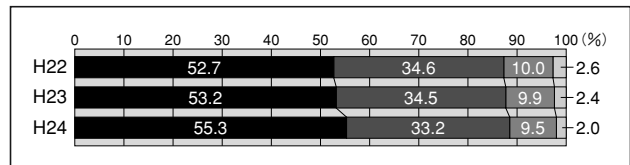
《国語の授業の内容はよくわかる》



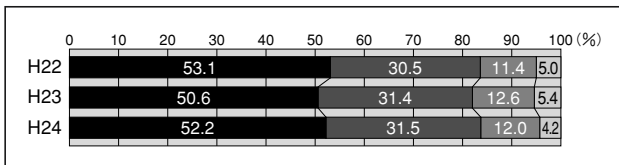
《社会の勉強は好きだ》



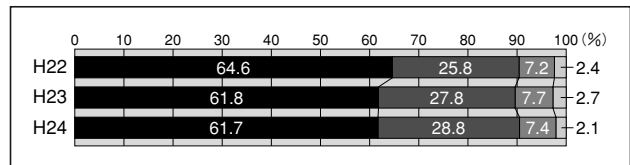
《社会の授業の内容はよくわかる》



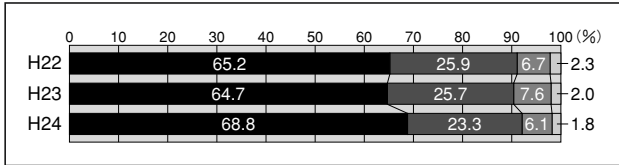
《算数の勉強は好きだ》



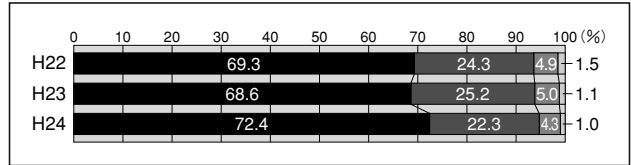
《算数の授業の内容はよくわかる》



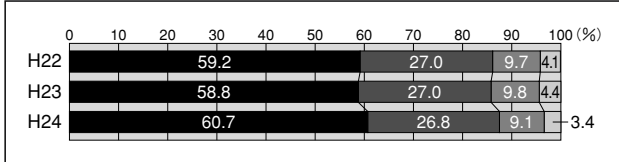
《理科の勉強は好きだ》



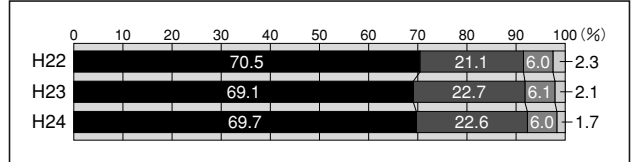
《理科の授業の内容はよくわかる》



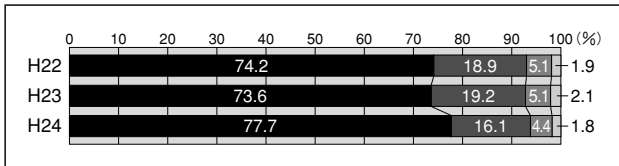
《音楽の勉強は好きだ》



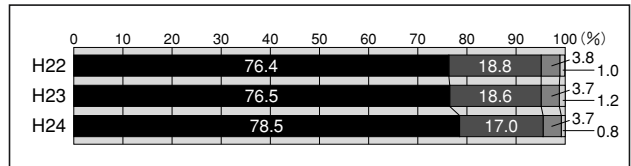
《音楽の授業の内容はよくわかる》



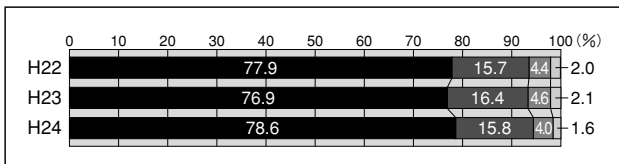
《図画工作の勉強は好きだ》



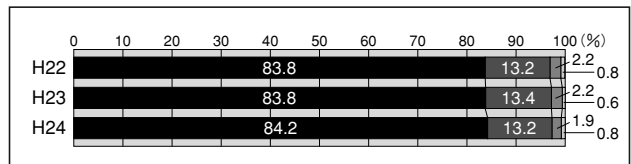
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



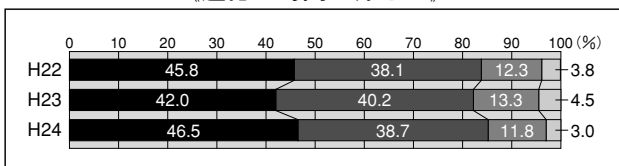
《体育の勉強は好きだ》



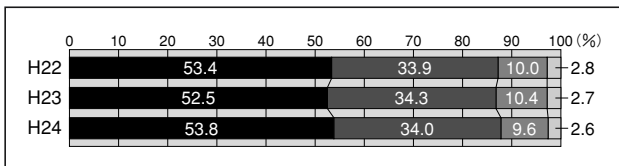
《体育の授業の内容はよくわかる》



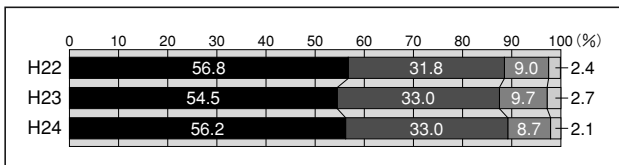
《道徳の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

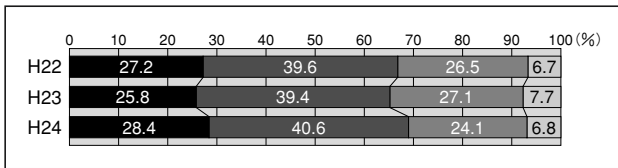


- ・《学校は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は89.7%であり、調査開始以来最も高い。
- ・各教科の《勉強が好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は77.2%～94.4%であり、これまでと同様に高い。
- ・各教科の《授業の内容はよくわかる》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は88.1%～97.4%であり、これまでと同様に高い。
- ・《道徳の時間は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は85.2%であり、23年度に比べて3.0ポイント増加しており、調査開始以来最も高い。

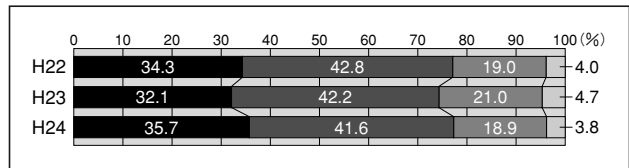
## 2 授業の中で次のようなことは好きですか。

■ 好き ■ どちらかといえば好き ■ どちらかといえば好きではない □ 好きではない

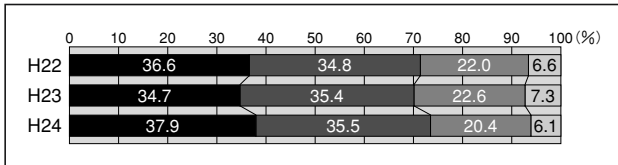
### 《自分の考えを発表したり話し合ったりすること》



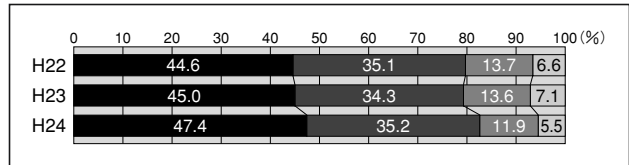
### 《課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



### 《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



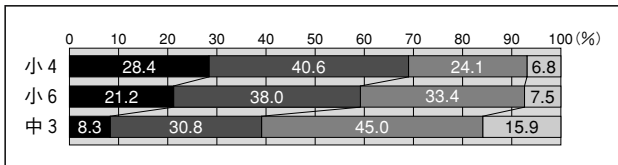
### 《地域の人や専門家が来て教えてくれること》



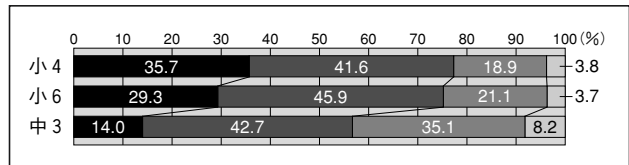
- ・《自分の考えを発表したり話し合ったりすること》《課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた小4児童の割合は、それぞれ69.0%、77.3%であり、23年度に比べて、それぞれ3.8ポイント、3.0ポイント高く、調査開始以来最も高い。
- ・《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》《地域の人や専門家が来て教えてくれること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた小4児童の割合は、それぞれ73.4%、82.6%であり、23年度に比べてともに3.3ポイント高く、調査開始以来最も高い。

## <学年間比較>

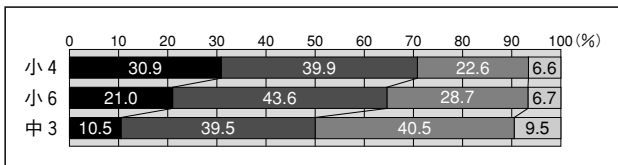
### 《自分の考えを発表したり話し合ったりすること》



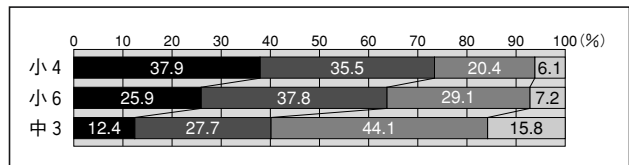
### 《課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



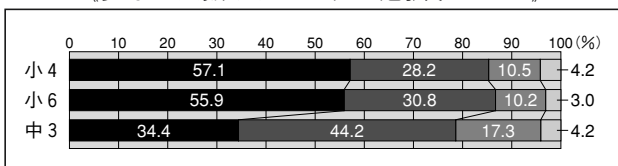
### 《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



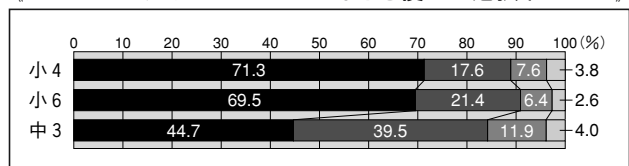
### 《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



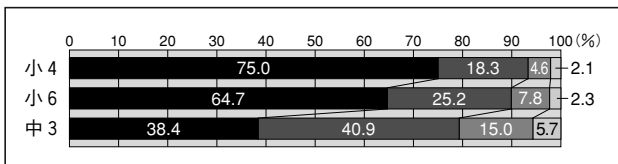
### 《少ない人数やグループで勉強すること》



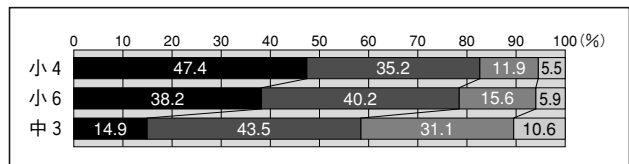
### 《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



### 《図書室を使って勉強すること》



### 《地域の人や専門家が来て教えてくれること》

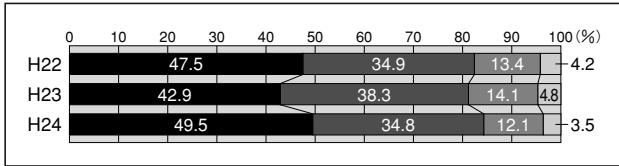


- ・《自分の考えを発表したり話し合ったりすること》《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合について、小4児童と小6児童との差は6.2～9.8ポイント、中3生徒との差は20.8～33.3ポイントあり、他の項目に比べて学年間の差が大きい。
- ・《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童生徒の割合は、いずれの学年も高く、他の項目に比べて学年間の差が小さい。

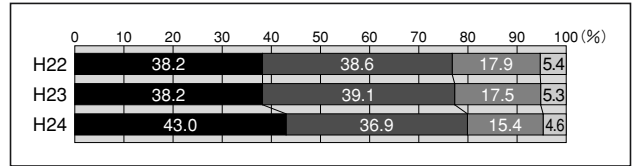
### 3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

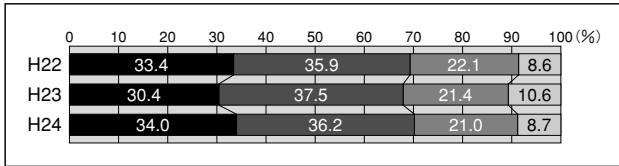
《新しく習った漢字を実際に生活で使おうとしている》



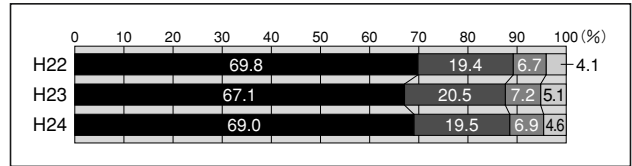
《ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》



《テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している》



《読書は好きだ》

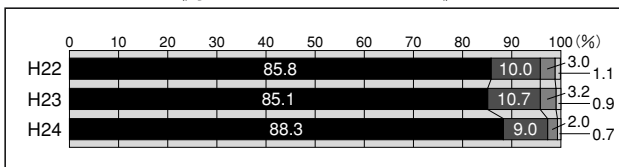


- ・《新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は84.3%と、23年度に比べて3.1ポイント増加している。
- ・《ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》《テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、それぞれ79.9%、70.2%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《読書は好きだ》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は88.5%であり、これまでと同様に高い。

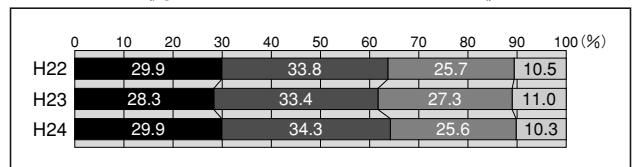
### 4 家で次のようなことをしていますか。

■ している ■ どちらかといえばしている ■ あまりしていない □ 全くしていない

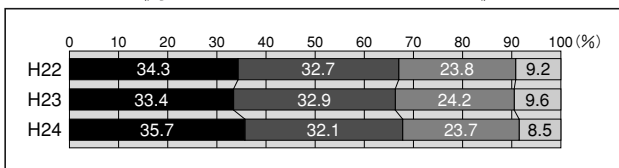
《学校の宿題をしている》



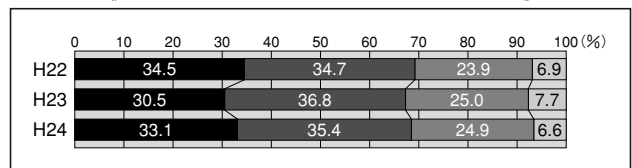
《学校の授業の予習をしている》



《学校の授業の復習をしている》



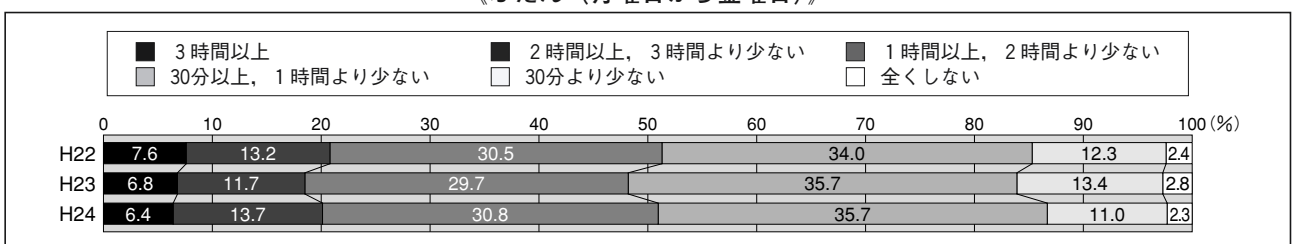
《自分で計画を立てて勉強をしている》



- ・《学校の宿題をしている》について、「している」と答えた児童の割合は88.3%、「どちらかといえばしている」を合わせた割合は97.3%であり、いずれも調査開始以来最も高い。
- ・《学校の授業の予習をしている》《学校の授業の復習をしている》について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、それぞれ64.2%、67.8%であり、いずれも調査開始以来最も高い。

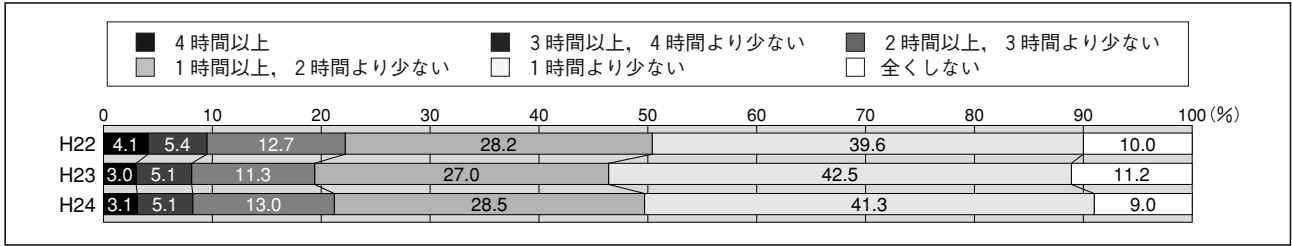
### 5 1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

《ふだん（月曜日から金曜日）》



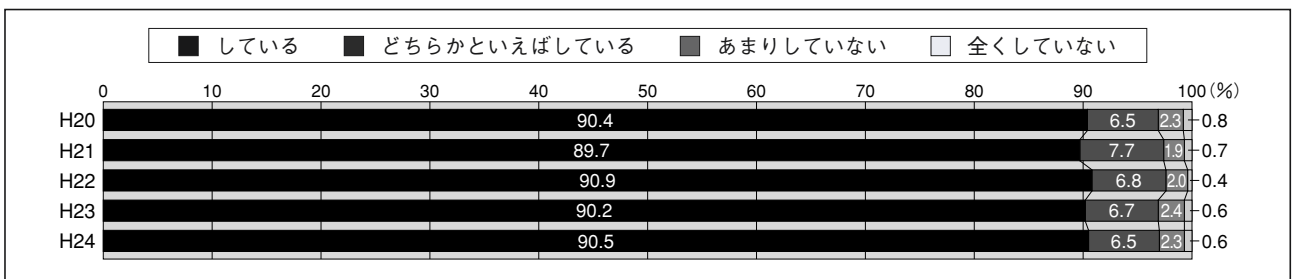


《土曜日や日曜日など学校が休みの日》



- ・家庭学習時間について、平日に30分以上学習する児童の割合は86.6%であり、調査開始以来最も高い。また、土曜日や日曜日に1時間以上学習する児童の割合は49.7%であり、23年度に比べて3.3ポイント増加している。

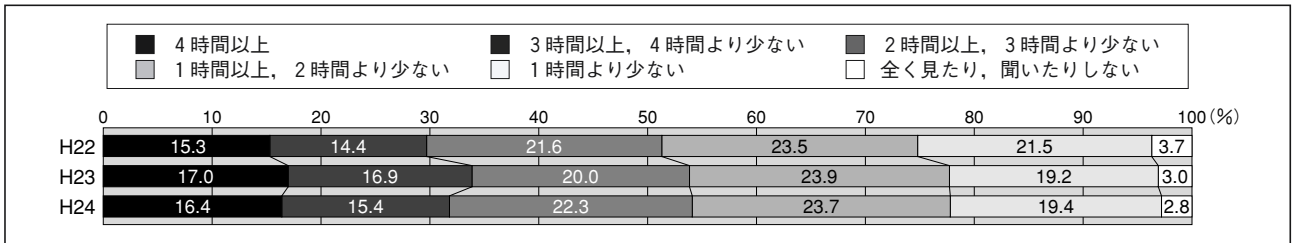
6 朝食を毎日食べていますか。



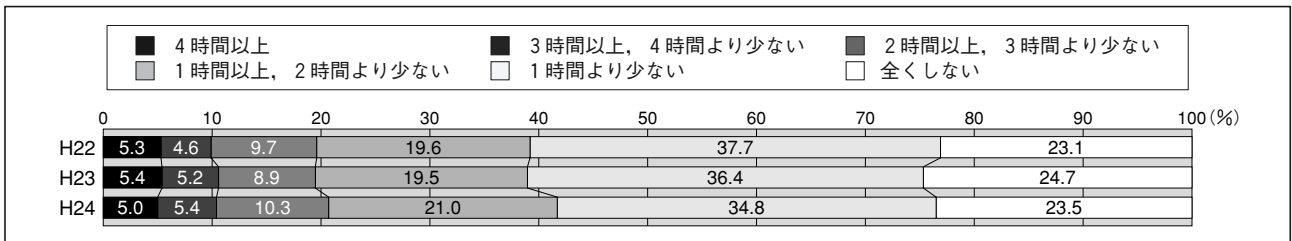
- ・《朝食を毎日食べている》について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は97.0%であり、これまでと同様に高い。

7

- (1) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）

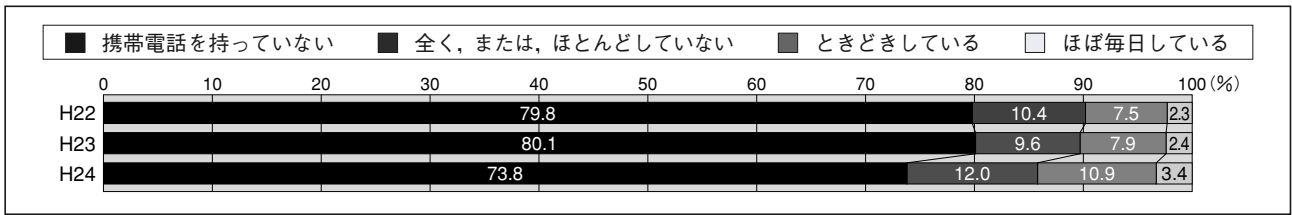


- (2) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含みます。）をしますか。



- ・ふだんのテレビ等の視聴時間について、「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」と答えた児童の割合は31.8%であり、これまでと同程度である。
- ・ふだんのテレビゲーム等について、1時間以上すると答えた児童の割合は41.7%であり、これまでと同程度である。

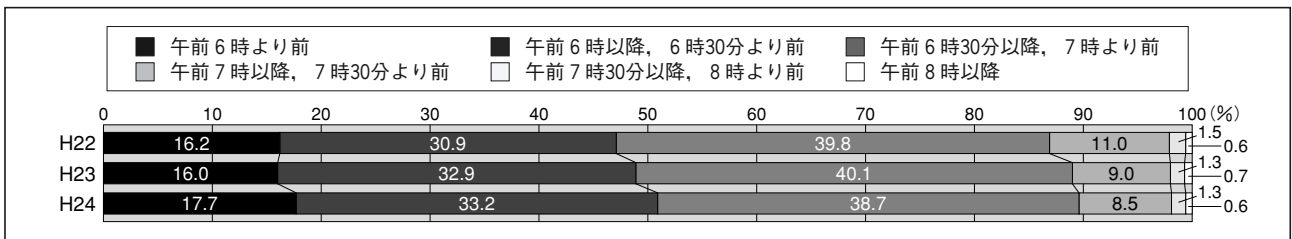
## 8 携帯電話で通話やメールをしていますか。



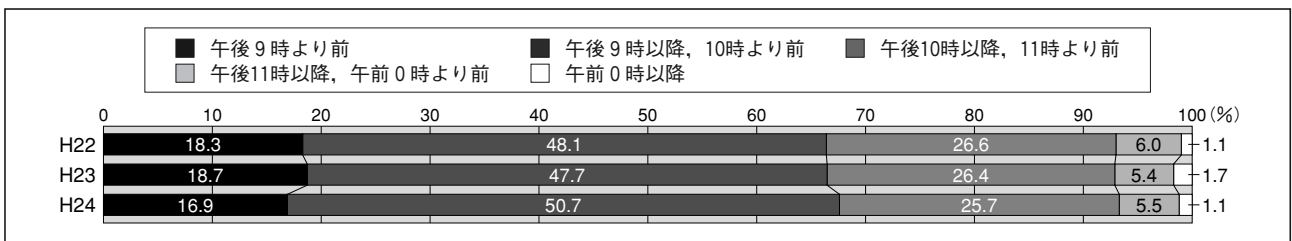
- ・「携帯電話を持っていない」と答えた児童の割合は73.8%であり、23年度に比べて6.3ポイント減少している。
- ・「ときどきしている」「ほぼ毎日している」と答えた児童の割合は14.3%であり、23年度に比べて4.0ポイント増加している。

## 9

### (1) ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに起きますか。



### (2) ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。

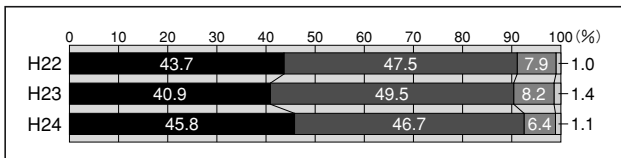


- ・ふだんの起床時刻について、午前7時より前に起きると答えた児童の割合は89.6%であり、調査開始以来最も高い。
- ・ふだんの就寝時刻について、「午後9時以降、10時より前」と答えた児童の割合が50.7%と最も高い。

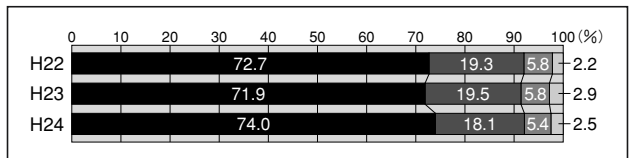
## 10 どのくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

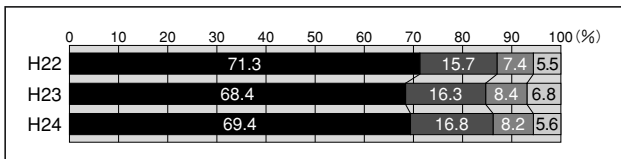
### 《学校のきまりを守っている》



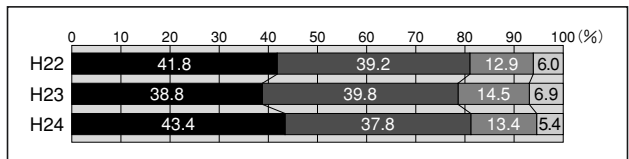
### 《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



### 《将来の夢や目標を持っている》



### 《自分には、よいところがある》



- ・《学校のきまりを守っている》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は92.5%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は92.1%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《自分には、よいところがある》について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は81.2%であり、これまでと同程度であるが、「あてはまる」と答えた児童の割合は43.4%であり、調査開始以来最も高い。

## 2 学習・生活状況と正答率との関係

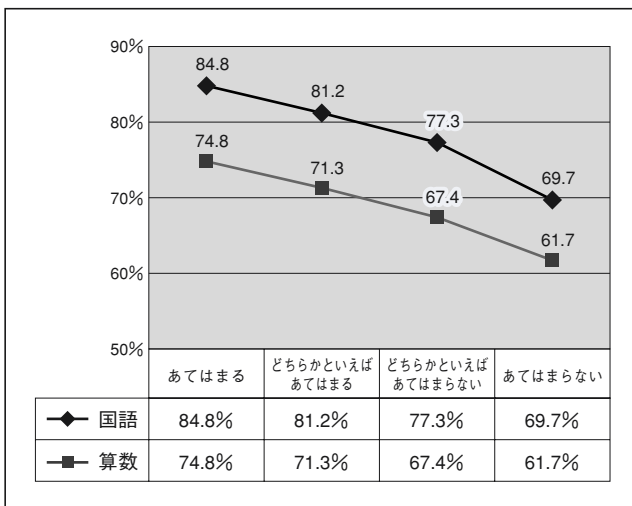
○ 小4児童の学習・生活状況と正答率の関係を分析すると、次のような結果となっている。

- ・これまでと同様に、国語と算数の正答率は相互に関連が強い。
- ・国語と算数の授業の内容はよくわかるという項目への回答は、相互に関連がある。
- ・自分の考えを發表したり話し合ったりすることが好きという項目と国語の授業で自分の考えを話したり書いたりしているという項目への回答は、かなり関連がある。

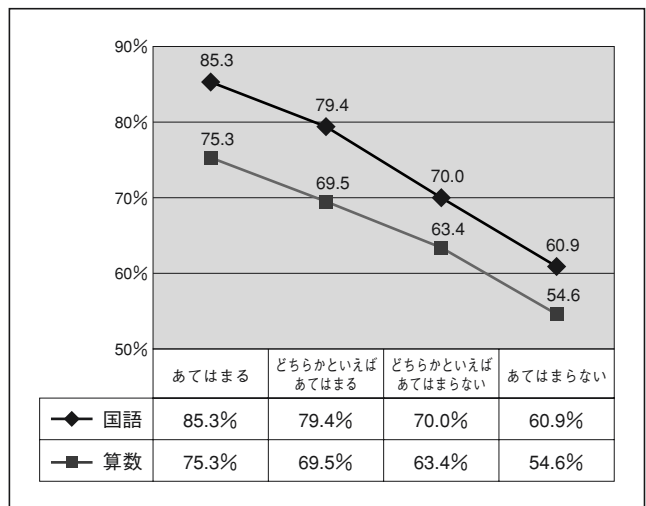
○ 次のような学習・生活状況の場合、国語でも算数でも正答率が高い傾向が認められる。

- ・国語・算数の授業の内容はよくわかる。
- ・算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている。
- ・学校の宿題をしている。
- ・学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

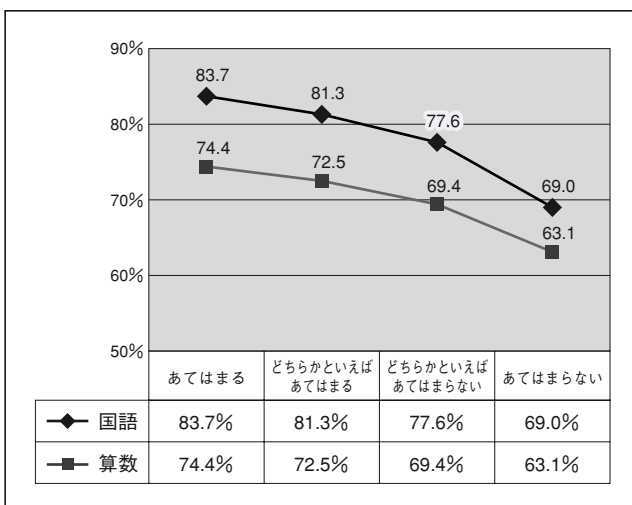
《国語・算数の勉強は好きだ》



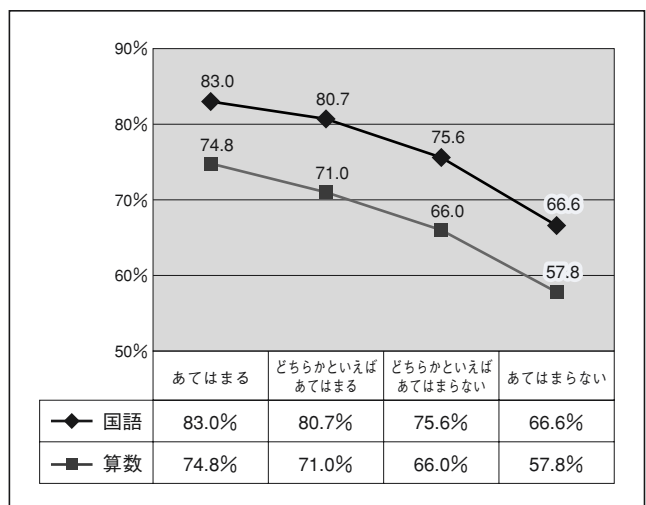
《国語・算数の授業の内容はよくわかる》



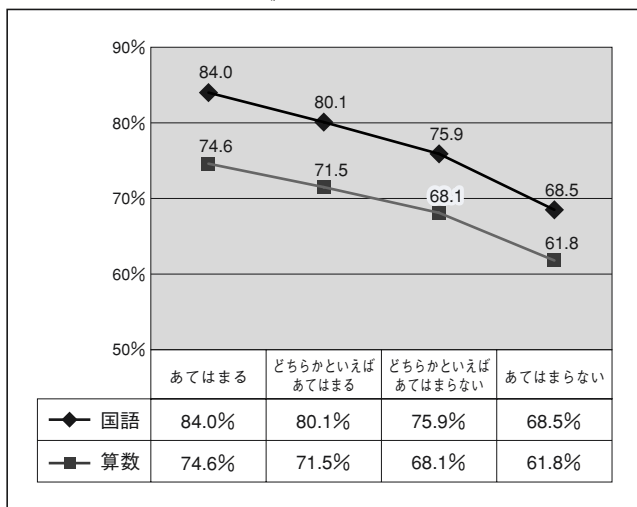
《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》



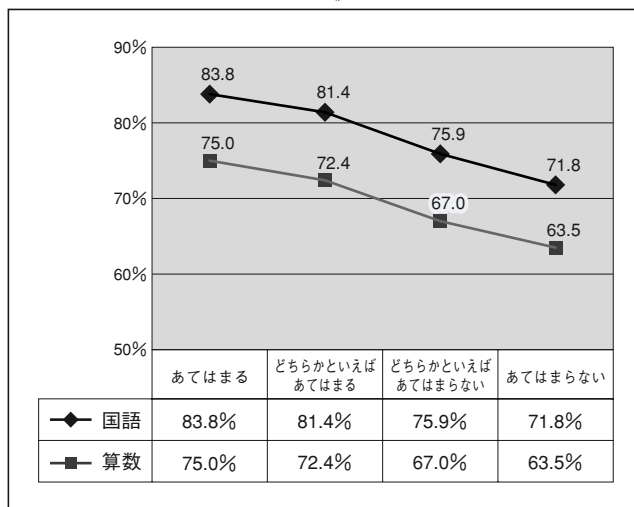
《算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている》



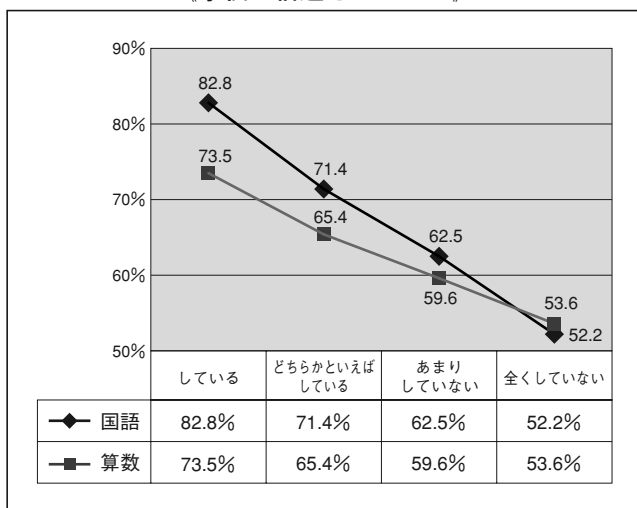
《算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている》



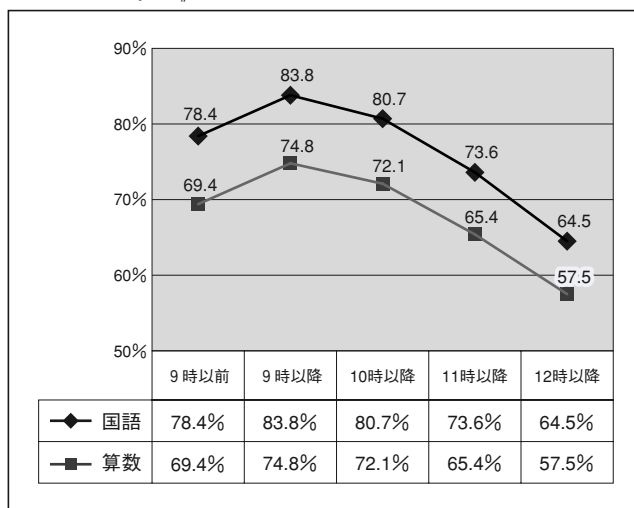
《ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》



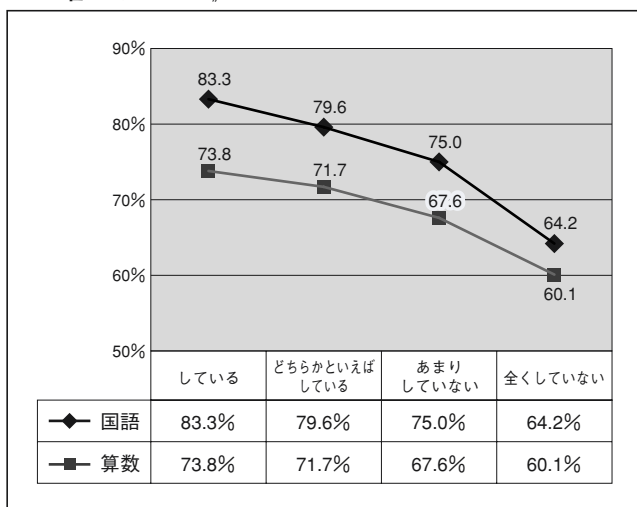
《学校の宿題をしている》



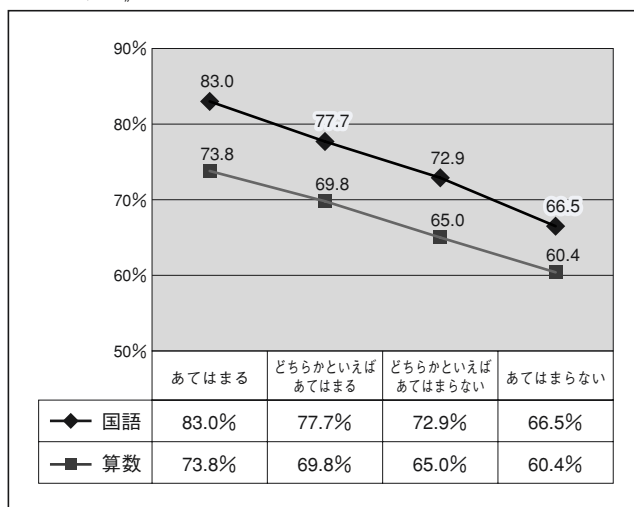
《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろにねますか》



《学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



### 3 教員の調査結果

23年度と同様に、調査された項目の多くで肯定的な回答が見られた。中学校においては、23年度に比べて、授業の内容と関連させて、調べさせたり、発展的に考えさせたりするための宿題を出している教員の割合が7.5ポイント、ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている教員の割合が7.5ポイント増加するなど、伸びが顕著な項目を含め、半数以上の項目において3.0ポイント以上増加している。

#### 学びの指針 1～3

- 活用力を育成する指導をしている教員の割合は、小学校、中学校ともに増加しており、記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている教員は、小学校で81.9%、中学校で70.5%で、23年度に比べてそれぞれ5.5ポイント、4.8ポイント増加している。
- 考えの根拠や筋道を明確にして説明や論述ができるように指導をしている教員の割合は小学校で89.9%、中学校では75.7%であり、23年度に比べてそれぞれ3.5ポイント、6.4ポイント増加している。

#### 学びの指針 7

- 学習規律、校則や集団生活のルール、挨拶などの指導、児童生徒をほめたり励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている教員の割合は、95%以上と23年度同様に高い。
- 児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている教員の割合は、小学校で96.8%、中学校で88.0%であり、23年度に比べて中学校で3.7ポイント増加している。

#### 学びの指針 10

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導について、「よくしている」「している」と答えた教員の割合は、小学校で59.6%、中学校で85.4%であり、23年度に比べて小学校で3.6ポイント増加している。

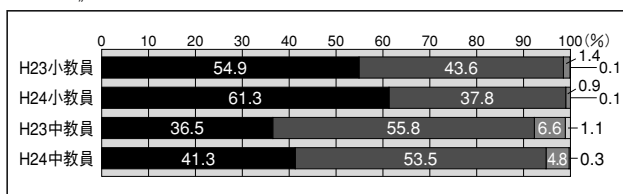
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

#### 1 次の指導を、昨年度からどの程度行っていますか。

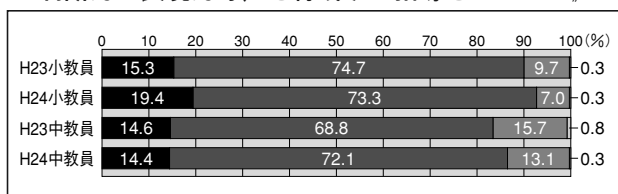
■ よくしている ■ している ■ あまりしていない □ ほとんどしていない

#### 【学力の重要な要素に関すること】

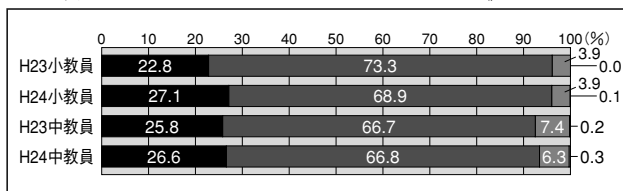
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



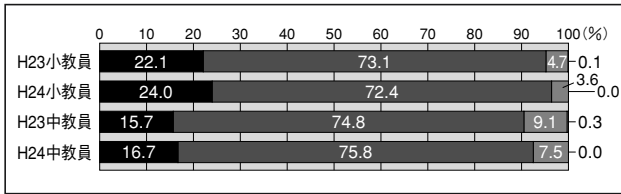
《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



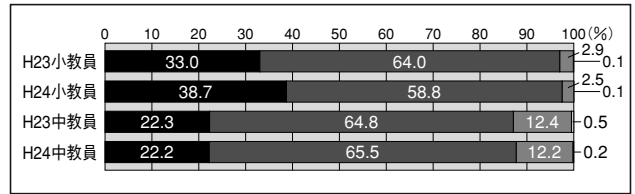
- ・ 《繰り返し学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》と答えた小学校教員の割合は、それぞれ99.1%、96.0%と高い。中学校教員の割合も94.8%、93.4%と、同様に高い。
- ・ 学力の重要な要素に関する上記3項目の中で「よくしている」と答えた教員の割合が高いのは、《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》であり、小学校が61.3%、中学校が41.3%と、23年度に比べてそれぞれ6.4ポイント、4.8ポイント増加している。

【教科等関すること】

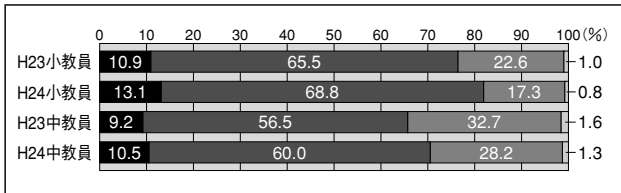
《児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導をしている》



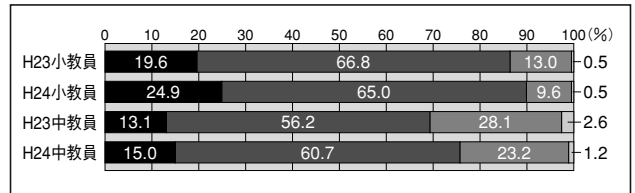
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保し、学ぶ合う場を設けている》



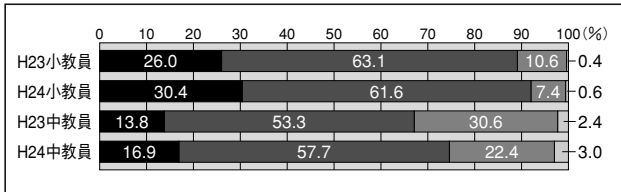
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



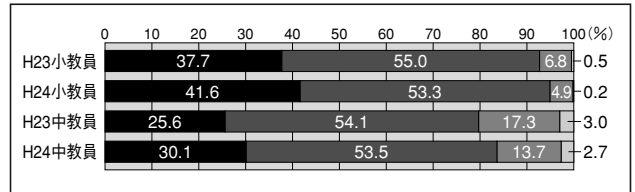
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》



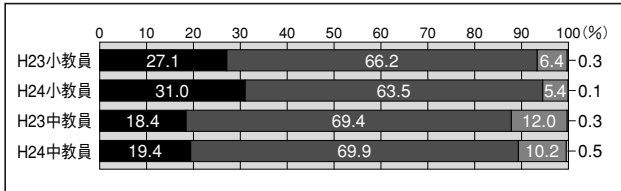
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》



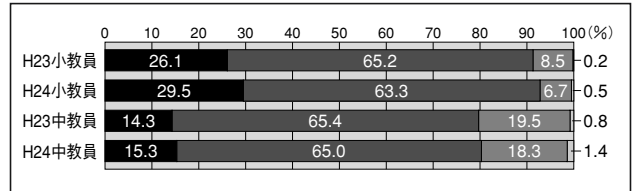
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



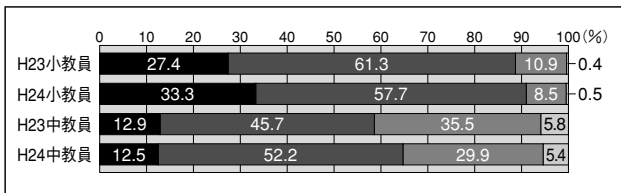
《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》



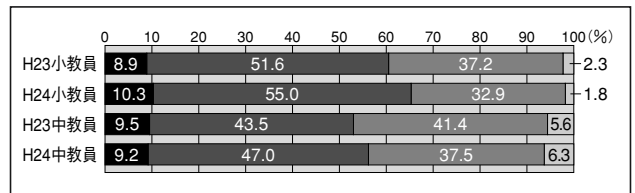
《児童生徒が、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を取り入れた指導をしている》



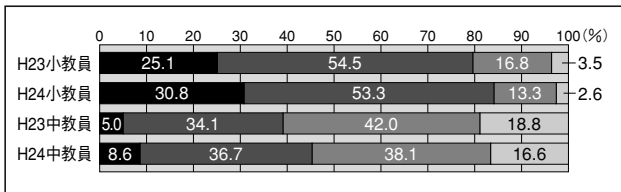
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



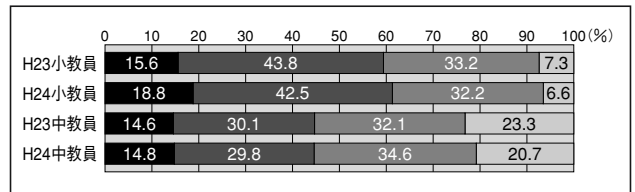
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



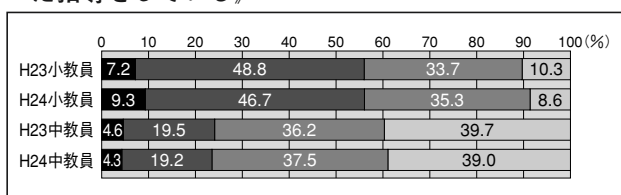
《休み時間や放課後など授業時間以外に、習熟の遅い児童生徒に、補充指導をしている》



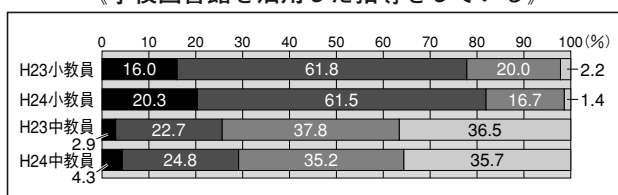
《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



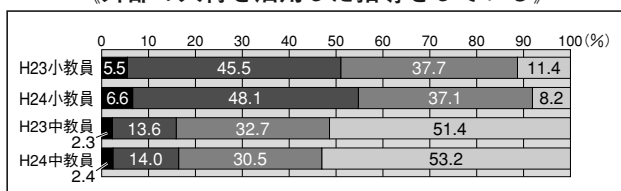
《児童生徒がコンピュータを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



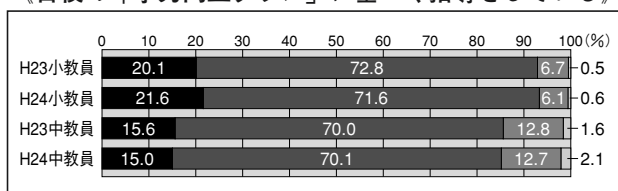
《学校図書館を活用した指導をしている》



《外部の人材を活用した指導をしている》



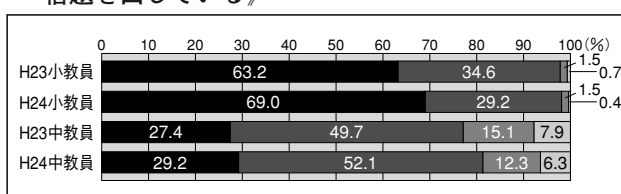
《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



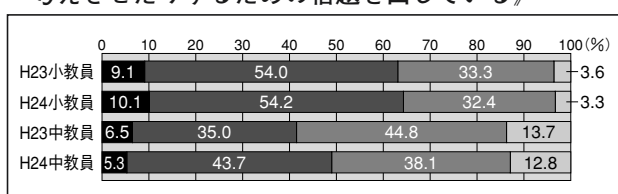
- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保し，学び合う場を設けている》《児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている》《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は93.2～97.5%，中学校教員の割合は85.1～92.5%と，他の項目に比べて高いのは，23年度と同様である。
- ・《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して，考え方を身に付けさせる指導をしている》について，「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は92.0%と高く，中学校教員の割合は74.6%と23年度に比べて7.5ポイント増加している。
- ・《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》について，「よくしている」と答えた教員の割合は，小学校で41.6%，中学校で30.1%であり，23年度に比べてそれぞれ3.9ポイント，4.5ポイント増加している。また，「している」を含めると小学校は94.9%と高く，中学校は83.6%と23年度に比べて3.9ポイント増加している。

【家庭学習に関すること】

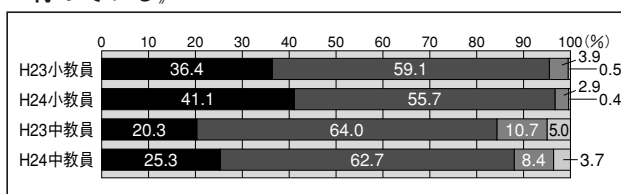
《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》



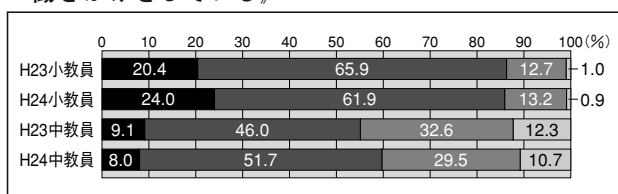
《授業の内容と関連させて，調べさせたり，発展的に考えさせたりするための宿題を出している》



《児童生徒が取り組んだ宿題について，評価・指導を行っている》



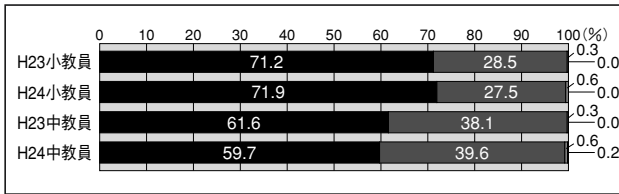
《保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》



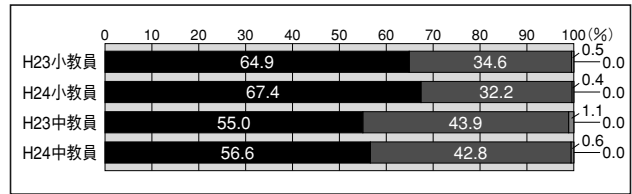
- ・《基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための宿題を出している》について，「よくしている」「している」と答えた割合は，小学校教員が98.2%であり，23年度と同様に高い。中学校教員の割合は81.3%であり，23年度に比べて4.2ポイント増加している。
- ・《児童生徒が取り組んだ宿題について，評価・指導を行っている》について，「よくしている」「している」と答えた割合は，小学校教員は96.8%で23年度と同様に高い。中学校教員の割合は88.0%であり，23年度に比べて3.7ポイント増加している。

## 【学習規律等に関すること】

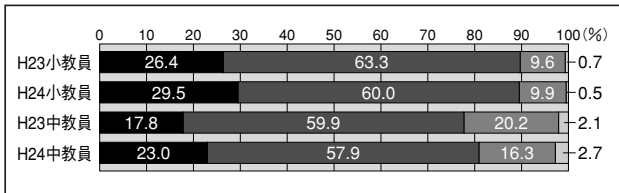
《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》



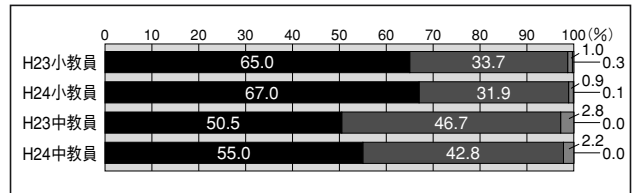
《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》



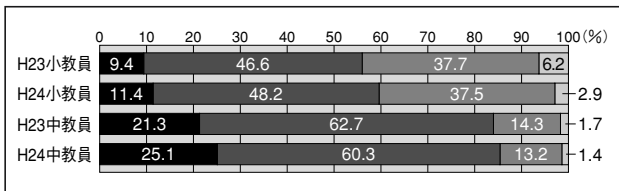
《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》



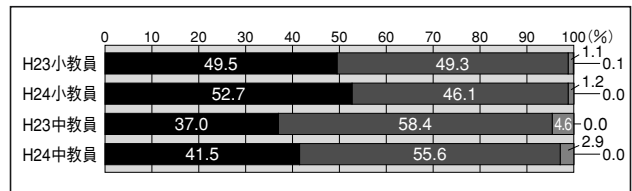
《児童生徒に、進んであいさつをするよう指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



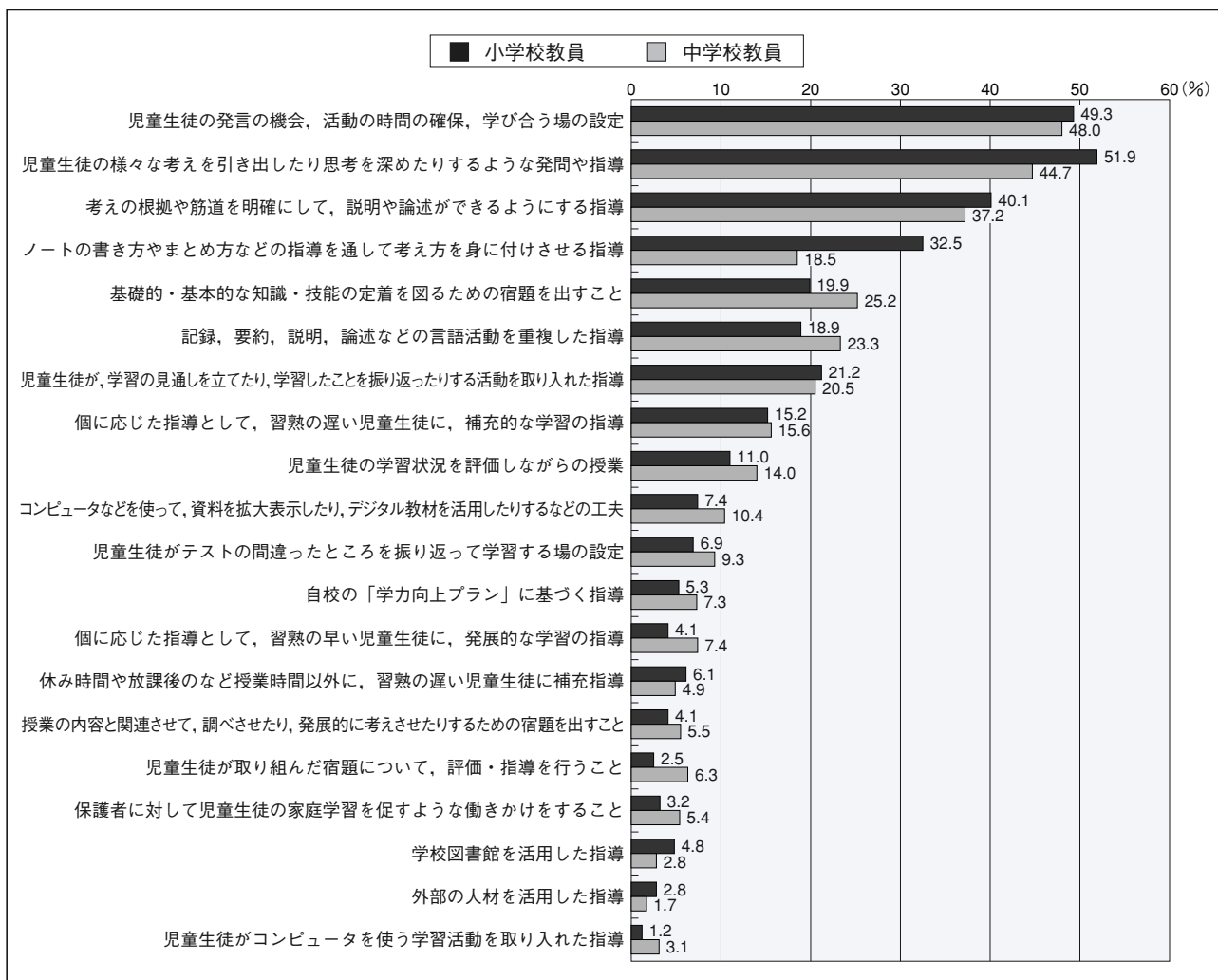
《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



- ・《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》について、「よくしている」「している」と答えた中学校教員の割合は、80.9%であり、23年度に比べて3.2ポイント増加している。また、「よくしている」と答えた小学校教員、中学校教員の割合は、それぞれ29.5%、23.0%であり、23年度に比べて、それぞれ3.1ポイント、5.2ポイント増加している。
- ・《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》について、「よくしている」「している」と答えた小学校教員の割合は、59.6%であり、23年度に比べて3.6ポイント増加している。また、「よくしている」と答えた中学校教員の割合は、25.1%であり、23年度に比べて3.8ポイント増加している。
- ・《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、「よくしている」と答えた教員の割合は、小学校で52.7%、中学校で41.5%であり、23年度に比べてそれぞれ3.2ポイント、4.5ポイント増加している。



2 これからの指導において、特に重点をおきたいもの3つはどれですか。



- ・ これからの指導において特に重点をおきたいものについて、《児童生徒の発言の機会、活動時間の確保、学び合う場の設定》《児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導》《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする指導》が上位であることは、23年度と同様である。

平成24年度

「基礎学力調査」一分析・考察一

平成24年10月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1826

e-mail : [gakusi@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:gakusi@pref.ishikawa.lg.jp)